

水 録

出

昭和七年十二月發行



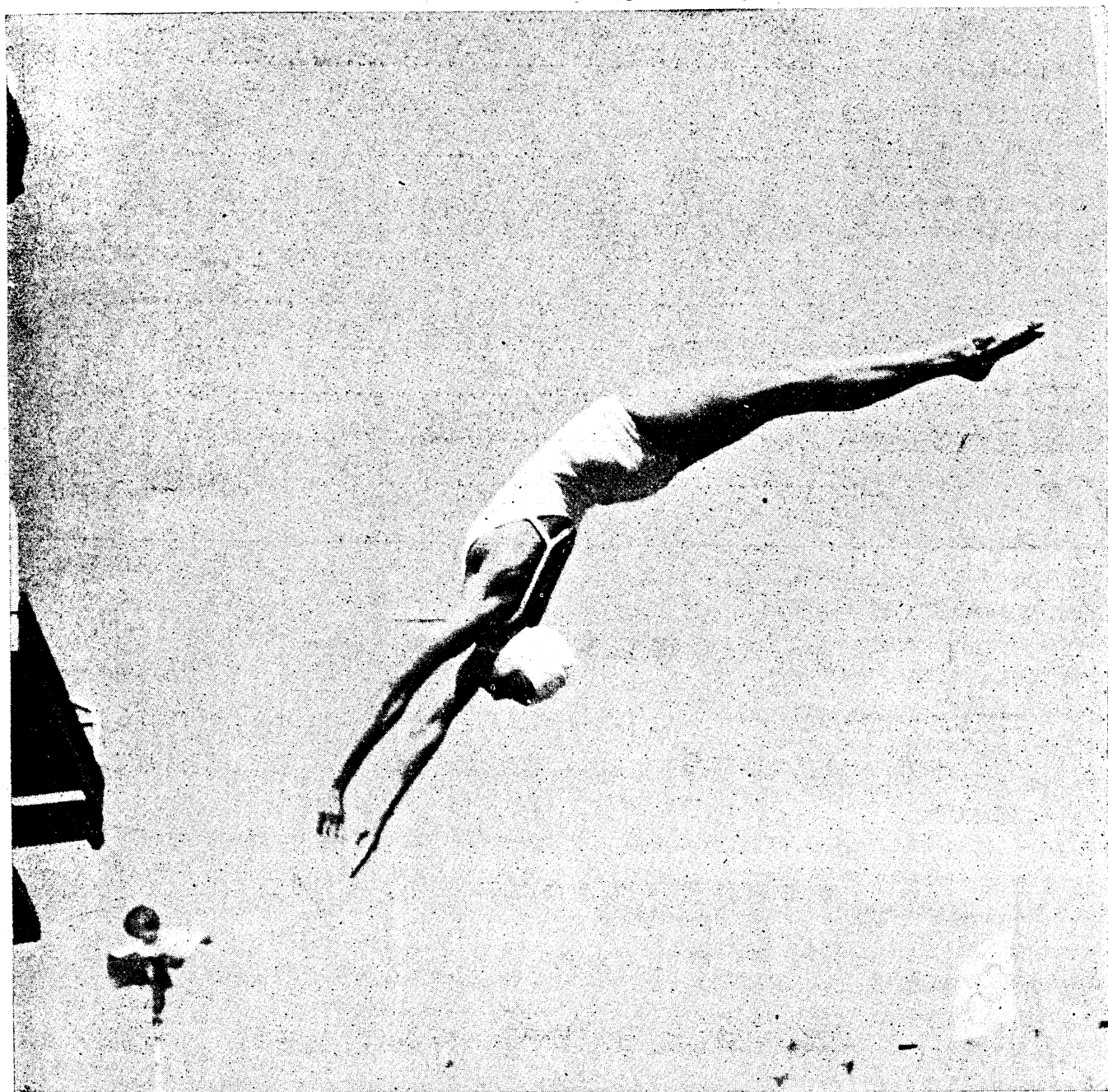
1932

NO.15

日本水産資源研究會



第十五號



空中の均齊美 (フオーンツ嬢)

目 次

より多き参加へ	松澤 一鶴	(3)
昭和七年度新記録	日本水上競技聯盟	(4)
オリンピック競泳印象記	松澤 一鶴	(8)
男子400米決勝		(10)
100米背泳決勝		(14)
日本競泳發達史	市村 魁山	(15)
オリンピック競泳ラップ・タイム(その一)		(19)
オリンピック村生活		(20)
回顧三十有一年(承前)	堀江 耕造	(21)
昭和七年度 日本選手權大會		(25)
日本飛込チーム		(26)
島崎保正氏の審判振り		
水球リーグ戦	林正之・澤海東助	(28)
正 誤 表		(29)
君よ知るや、南の島(カタリナ島紀行)		(30)
各地水上競技會情報		(31)
鎌倉悦子嬢の後逆飛		(38)
會 報	日本水上競技聯盟	(39)

本 聯 盟 事 務 所 移 轉

聯盟本部の事務能率をあげるために、事務所を東京驛前の丸の内ビルディング8階に移しました。東京驛等に御出の節は御立寄り下さい。尙夏は神宮外苑プールに於ても事務を取扱ふ豫定です。

東京市麹町區丸の内ビルディング807
振替東京39919
電話丸の内(23)3608

日 本 水 上 競 技 聯 盟

よ り 多 き 参 加 へ

日本水上競技聯盟名譽主事

松 澤 一 鶴

たゞ見る十萬五千の人の谷。マラソン・ゲートをくゞり出た我々日本チームは、世界の人の谷間を、いひ様の無い感激と興奮の雰圍氣の中にパレード・オブ・ネーションの第一歩を踏み始めたのであつた。第十回オリンピック大會の開會式。ロスアンジェルスが世界注目の中心となる第一日であつた。

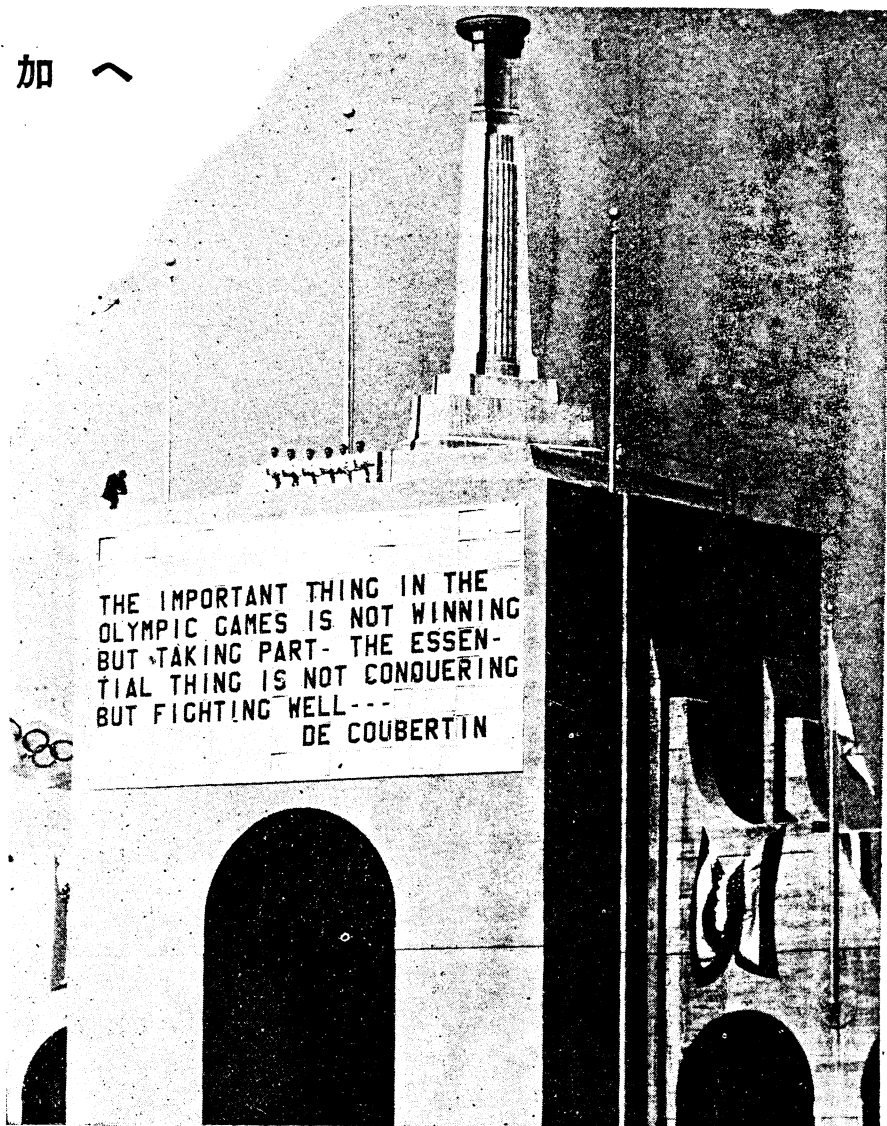
日本チーム、メンバーの一員として加り得た私もたゞ日本と云ふ國をのみ意識しながら、緊張と感激の裡に、トラックを一巡し終つてフィールド中の整列地點に立つた時に漸く四周を見廻す餘裕を持ち始めた。そして左手正門の掲示板に掲げてあるクーベルタン男爵の言葉を讀んだ。カットの寫眞はその日のその語である。

「オリンピック競技に於て大切な事は勝つ事で無くて實に参加する事だ——」全くやるんで無ければ勝負もへつたくれもあつたものぢやないからなと思ふ。

「肝心な事はやつつける事ぢやなくて、よく戦ふ事だ……」又來たなと思ふ。これから戦つて闘つて勝たうと思つてる私達の氣持から見れば何だかピントが外れて居る様な氣さへした。然し當日はそれからそれへと心に觸れる事柄が多くて、此の言葉も名言ではあると思つたばかりで深く考へて見る隙もなかつた。

× × × × ×

此の秋、本聯盟の代議員會にて選ばれ、不肖の身を以て私が名譽主事の席を汚す事になつて、さあ事だと思つた。此の會議に於て定められた聯盟の今後の方針である所の、水上競技の向上と、殊に地方的發達の二條項は今後理事者諸君と協力して死力を盡して貫徹を期さなければならぬと決心したのであつたが、此の折にふと再び此のクーベルタン男爵の言葉が思ひ返されて來た。



我一人如何に空拳を振へばとて、又如何に呼べばとて、競技に参加するものなくて、又喜んで戦ひ取るもの無くて、どうしてそこに向上も發達も期待出来るだらうか。近代オリンピックの創始者たるクーベルタン男爵が苦難の半世紀の體驗を盛つた此の對句が、今やひしひしと私の胸に迫る、オリンピックの當時は全く競技者と同じ心になり切つて居つたので此の言葉もピントがほけてしか心に映じなかつたのであるが司宰する立場に代つて見ると至言であると痛感せざるを得ぬ。たゞその場に居合す者に呼びかけて居る言葉ではないらか既に参加して居る者には空に響くのみである。

本聯盟としては一つでも多くの加盟團體を増し、選手權大會でも或は地方競技會でも「よき多き参加」を第一に、参加した者はあくまでも勝つ事を目的に最後まで戦ふ事を本質として心掛けて相共に協力して行けば必然的に水泳の向上と發展が期し得られると信じ、就任の始に當つて此が實行を期しながら我微力を顧みて協力を仰ぐ次第である。

昭和七年度新記録

日本水上競技聯盟

昭和七年九月三十一日の日本水上競技聯盟代議員會に於て、競泳記録は長水路即ち50米以上の水路に於ける記録を正式とし、尙 500米以下の競泳に於ては短水路即ち50米未滿²⁵米以上の水路の記録を別に短水路記録として認めることに決定し、本年度より實施することとなつた。

日本國際記録は、日本領土内に於て作られた記録で、日本人及外國人の選手を含む。

日本記録は日本人が日本領土内及國外に於て作つた記録である。

世記録は世界記録

オ記録はオリンピック記録

日記録は日本記録

日國對は日本國際對記録

他は全部日本國際記録

男子競泳の部

時 間	氏 名	所 屬	競技會名	場 所	水路	月 日	
50米自由形							
26.4	高橋成夫	早大	全國學生	神宮	50	9.23	日對
26.4	高橋成夫	早大	全國學生	神宮	50	9.25	日對
26.4	宮本武夫	早大	全國學生	神宮	50	9.25	日對
100米自由形							
58.0	宮崎康二	日本	オリンピック	羅府	50	8.6	
58.2	宮崎康二	日本	オリンピック	羅府	50	8.7	
58.6	河石達吾	日本	オリンピック	羅府	50	8.7	
58.7	宮崎康二	日本	オリンピック	羅府	50	8.6	
59.0	河石達吾	日本	オリンピック	羅府	50	8.6	日記
59.2	高橋成夫	日本	オリンピック	羅府	50	8.7	日對
200米自由形							
2:14.6	大横田勉	明大	オ最終豫選	神宮	50	6.12	
2:15.2	横山隆志	早大	全國學生	神宮	50	9.25	
2:15.4	横山隆志	早大	オ最終豫選	神宮	50	6.11	日對
300米自由形							
3:37.2	大横田勉	明大	オ最終豫選	神宮	50	6.12	
3:38.0	大横田勉	明大	オ最終豫選	神宮	50	6.11	
3:36.2	杉本盛	日大	オ第二選	神宮	50	6.5	
短水路							
3:39.6	大横田勉	明大	N.S.R. 記録會	明大	25	4.10	
400米自由形							
4:50.4	大横田勉	明大	オ最終豫選	神宮	50	6.12	
4:50.6	横山隆志	早大	オ最終豫選	神宮	50	6.12	
4:51.4	横山隆志	日本	オリンピック	羅府	50	8.9	
4:52.0	大横田勉	明大	オ最終豫選	神宮	50	6.11	
4:52.3	大横田勉	日本	オリンピック	羅府	50	8.10	
4:52.5	横山隆志	日本	オリンピック	羅府	50	8.10	
4:52.8	大横田勉	日本	オリンピック	羅府	50	8.9	

4:53.2	横山隆志	日本	オリンピック	羅府	50	8.8
4:56.1	杉本盛	日本	オリンピック	羅府	50	8.8
4:56.4	杉本盛	日大	オ最終豫選	神宮	50	6.12

1000米自由形

12:54.7	牧野正藏	日本	オリンピック	羅府	50	8.13	世記録
13:11.6	北村久壽雄	高知商	オ最終豫選	神宮	50	6.11	
13:12.2	石原田愿	明大	オ最終豫選	神宮	50	6.11	
13:13.6	北村久壽雄	高知商	日本選手権	神宮	50	10.2	
13:14.2	北村久壽雄	高知商	日本選手権	神宮	50	10.1	

1500米自由形

19:12.4	北村久壽雄	日本	オリンピック	羅府	50	8.13	オ記録
19:14.1	牧野正藏	日本	オリンピック	羅府	50	8.13	

500米背泳

31.6	清川正二	名古屋	全 國 學 生	神宮	50	9.23	日國對
31.6	清川正二	名古屋	全 國 學 生	神宮	50	9.25	日國對
31.8	河津憲太郎	明大	全 國 學 生	神宮	50	9.23	日記録
31.8	清川正二	名古屋	全 國 學 生	神宮	50	9.24	日記録
31.8	河津憲太郎	明大	全 國 學 生	神宮	50	9.24	日記録
31.8	河津憲太郎	明大	全 國 學 生	神宮	50	9.25	日記録
32.2	入江稔夫	早大	全 國 學 生	神宮	50	9.25	日對

100米背泳

1:08.6	清川正二	日本	オリンピック	羅府	50	8.12	
1:08.9	清川正二	日本	オリンピック	羅府	50	8.10	
1:09.0	清川正二	日本	オリンピック	羅府	50	8.11	
1:09.8	入江稔夫	日本	オリンピック	羅府	50	8.12	
1:10.0	清川正二	名古屋	オ最終豫選	神宮	50	6.11	
1:10.0	河津憲太郎	日本	オリンピック	羅府	50	8.12	
1:10.2	河津憲太郎	日本	オリンピック	羅府	50	8.11	
1:10.2	清川正二	名古屋	全 國 學 生	神宮	50	9.25	
1:10.6	河津憲太郎	明大	全 國 學 生	神宮	50	9.24	
1:10.6	河津憲太郎	明大	全 國 學 生	神宮	50	9.25	
1:10.8	清川正二	名古屋	オ最終豫選	神宮	50	6.12	
1:10.8	清川正二	名古屋	日本選手権	神宮	50	10.2	
1:10.9	河津憲太郎	日本	オリンピック	羅府	50	8.10	
1:10.9	入江稔夫	日本	オリンピック	羅府	50	8.11	
1:11.3	入江稔夫	日本	オリンピック	羅府	50	8.10	
1:11.4	入江稔夫	早大	全 國 學 生	神宮	50	9.24	
1:11.4	入江稔夫	早大	全 國 學 生	神宮	50	9.25	
1:11.8	河津憲太郎	明大	オ最終豫選	神宮	50	6.11	日國對
1:11.8	入江稔夫	早大	オ最終豫選	神宮	50	6.12	日國對
1:12.0	入江稔夫	早大	オ最終豫選	神宮	50	6.11	日對

短水路

1:09.6	清川正二	名古屋	清川歓迎	七本松	25	9.18	
1:09.8	清川正二	名古屋	N.S.R.記録會	明大	25	4.10	
1:11.0	河津憲太郎	明大	N.S.R.記録會	明大	25	4.10	
1:11.6	鈴木政雄	明大	N.S.R.記録會	明大	25	4.10	

200米 背 泳

2:36.6	清 川 正 二	名古屋	日本選手権	神 宮	50	10.2
短 水 路						
2:35.2	清 川 正 二	名古屋	清 川 歡 迎	七本松	25	9.18
2:37.6	清 川 正 二	名古屋	N.S.R. 記録會	明 大	25	4.10

100米 平 泳

1:16.0	小 池 禮 三	沼 商	日本選手権	神 宮	50	9.30
1:16.0	小 池 禮 三	沼 商	日本選手権	神 宮	50	10.2
1:16.6	小 池 禮 三	沼 商	日本選手権	神 宮	50	10.1

従來の最高記録 1:14.8(鶴田義行)は短水路記録にして、長水路最高記録は昭和6年10月3日、神宮(50米)に於ける鶴田義行の1:16.6である。

200米 平 泳

2:44.9	小 池 禮 三	日 本	オリッピック	羅 府	50	8.12	才記録
2:45.4	鶴 田 義 行	日 本	オリッピック	羅 府	50	8.12	
2:45.4	鶴 田 義 行	日 本	オリッピック	羅 府	50	8.13	
2:46.2	鶴 田 義 行	日 本	オリッピック	羅 府	50	8.11	
2:46.2	小 池 禮 三	日 本	オリッピック	羅 府	50	8.11	
2:46.6	小 池 禮 三	日 本	オリッピック	羅 府	50	8.13	
2:47.0	小 池 禮 三	沼 商	オ最終豫選	神 宮	50	6.11	
2:47.6	小 池 禮 三	沼 商	オ最終豫選	神 宮	05	6.12	

従來の最高記録 2:45.0(鶴田義行)は短水路記録にして長水路の最高記録は昭和3年8月8日アムステルダム(50米)に於ける鶴田義行の2:48.8である。

400米 平 泳

短 水 路							
6:17.8	小 池 禮 三	沼 商	N.S.R. 記録會	明 大	25	4.10	
6:21.4	鶴 田 義 行		N.S.R. 記録會	明 大	25	4.10	
6:24.2	原 毅	帝 大	N.S.R. 記録會	明 大	25	4.10	日記録
6:24.4	伊 藤 三 郎	中 泉	N.S.R. 記録會	明 大	25	4.10	日 對

500米 平 泳

短 水 路							
7:50.4	小 池 禮 三	沼 商	N.S.R. 記録會	明 大	25	4.10	
7:52.2	中 川 重 雄	名古屋	N.S.R. 記録會	明 大	25	4.10	
8:15.0	山 田 弘	廣島一中	N.S.R. 記録會	明 大	25	4.10	

800米リレー

8:58.4	宮 崎 康 二 遊 佐 正 憲 豐 田 久 吉 横 山 隆 志	日 本	オリッピック	羅 府	50	8.9	世記録 才記録
9:01.4	宮 崎 康 二 遊 佐 正 憲 豐 田 久 吉 大 横 田 勉	日 本	大 陸 對 抗	羅 府	50	8.14	
9:16.2	坂 上 安 太 郎 志 村 義 久 米 山 弘 横 山 隆 志	早 大	全 國 學 生	神 宮	50	9.25	

9:19.2	{ 武 村 寅 雄 片 山 兼 吉 武 村 清 大 横 田 勉	明 大 全 國 學 生 神 宮 50	9.25 日 記 録
--------	--	--------------------	------------

女子競泳の部

100米自由形

1:14.8	小 島 一 枝	梶山女	日 本 選 手 権	神 宮	50	10.1
--------	---------	-----	-----------	-----	----	------

200米自由形

2:49.4	小 島 一 枝	梶山女	日 本 選 手 権	神 宮	50	10.2
--------	---------	-----	-----------	-----	----	------

100米背泳

1:25.1	横 田 み さ を	日 本	オ リ ン ピ ッ ク	羅 府	50	8.9
1:27.2	横 田 み さ を	京 武	オ 最 終 豫 選	神 宮	50	6.12

従來の最高記録1:27.4(加藤好子)は短水路記録にして、長水路最高記録は昭和6年8月15日神宮(50米)に於ける加藤好子の1:28.4である。

200米平泳

3:06.4	前 畑 秀 子	日 本	オ リ ン ピ ッ ク	羅 府	50	8.9
3:09.6	前 畑 秀 子	梶山女	日 本 選 手 権	神 宮	50	10.2
3:10.7	前 畑 秀 子	日 本	オ リ ン ピ ッ ク	羅 府	50	8.6
3:12.4	前 畑 秀 子	梶山女	オ 第 二 次 豫	神 宮	50	6.5 日 國 對

300米メドレー

4:16.8	{ 横 田 み さ を 前 畑 秀 子 小 島 一 枝	オ リ ン ピ ッ ク	日 米 埃 選 手 歡 迎	清 洲	50	10.11
		チ ャ ーム				

400米リレー

5:06.7	{ 小 島 一 枝 横 田 み さ を 守 岡 守 子 荒 田 雪 江	日 本	オ リ ン ピ ッ ク	羅 府	50	8.12
5:07.8		{ 小 島 一 枝 守 岡 初 子 松 澤 初 穂 荒 田 雪 江	亞 細 亞	大 陸 對 抗	羅 府	50 8.14

(18頁より)

高石 勝男 400米 6:7.6 1500米 25:26.0
 上田 治 100米背泳3:19.0
 坂倉 巖 200米平泳 3:28.2
 茨木中學 200米リレー 2:2.8(調布2:3.0を破る)
 茨木中學 800米リレー11:33.8

◇茨木中學の驚異

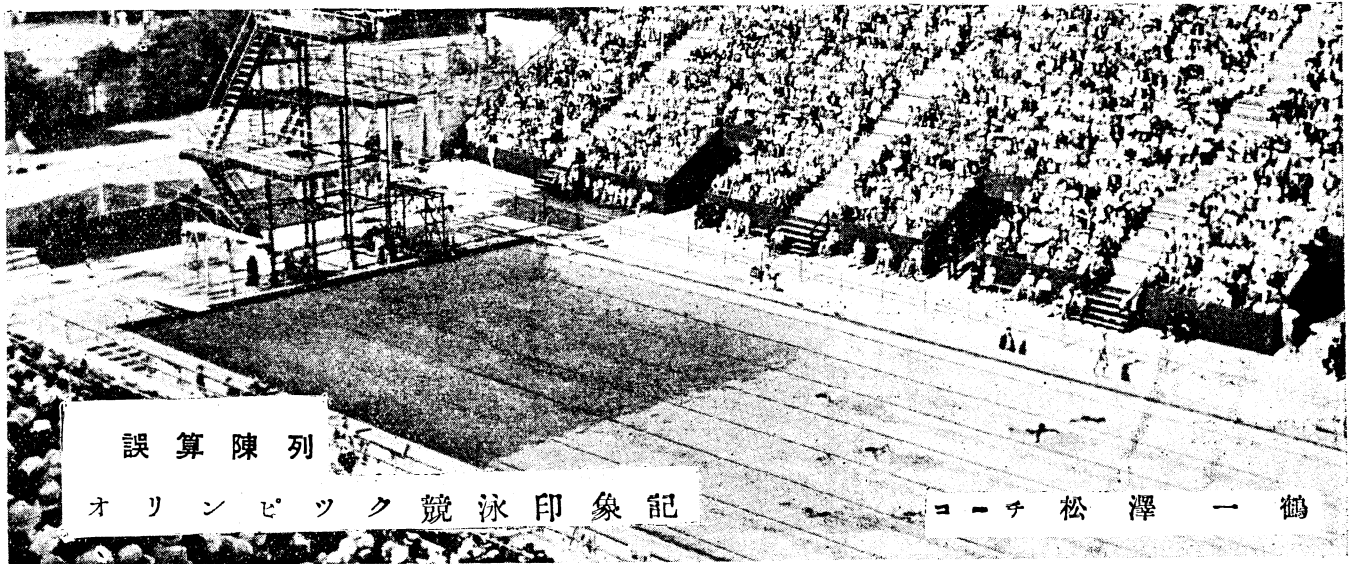
調布、濱寺、戸田、濱名、其他の各地に轉戦して疾風の如き勢ひを示せる茨木の躍進は、實に斯界驚異の的となつた。

入谷唯一郎 石田 恒信 上 田 治
 坂倉 巖 松上龍太郎 高石 勝男

木村 義孝 野塚 義則 杉原 茂
 村松 正一 田中 慶雄 吉岡 治一
 山崎 郁男 山本 盛光 齋藤吉之助
 中村喜久雄

の陣容は、競泳覺醒期を完全に壓倒した。斯の如き優秀選手を斯界に送り得たのは、主として杉本傳教諭の卓見に因るもので、プール建設の要と、クロールの勝利とを普ねく天下に實證したものである。

かくてわが競泳界は泳法過渡期を脱し、雪辱の意氣高く大阪の極東大會に臨まんとする。(第一章完結)



誤算陳列

オリンピック競泳印象記

コーチ松澤一鶴

十分の一秒の印象を

オリンピックも済んで見ればあつけなくさへ感ぜられる。かうなつて見れば、もう之が當り前の様な氣になつてくるから人間性の甘さは怖い。考へて見ればどれも決して樂なレースぢやなかつた。違つたと云つても十分の一秒が物を云つてる場合が多かつた。それに豫想が皆外れて終つた、(尤も多くよい方へではあつたが。)思ひ出し始めると一つ一つのレースに話がある。今その中でも印象の深かつた事柄を拾ひ出して、此からも苦しいぞと思ふ様にしたい。競技の経過は自ら報告書の領域であると考へて、雑誌の方は此邊を書きたいと思ふ。

敵は本能寺に

オリンピック水上競技の一番初に一番判定の厄介な男子百米がある。その一番始めの豫選の第一組には日本選手は居なかつたが、練習中一分切つた事の無いマニユエラ・カリリ(弟)が59秒6で勝つた時には、「おいでなすつたな」と思はざるを得なかつた。陸上競技で黒ン坊が活躍して居るからとて恐怖症にかゝつた譯では無いけれども、カリリにとつては日射しの強いロスアンゼルスは生れ故郷に歸つた様なものである。彼のコンディションは恐れる價值があつた。レースの結果は噂の通りワイスマユラーを生干しにした様なシュワーツの方が勝つ事は勝つたが、強味は確かにカリリにあつた。百米の決勝は技のレースと云ふよりはカリリの氣合負けと云へる様な氣がする。スタートの浮上りで少し遅れた宮崎が十米ではもうカリリと頭を並べて而もコースも5と

6と隣り合せであつた。

カリリの氣合崩れ

50米のターンも殆ど同時で宮崎、カリリ、同じに頭を浮べて來た。よかつたなと思ふと同時にチラツと早すぎなかつたかなと不安もきざして來る。而しまだ並んで居る。60……70……もう出るべきだと思ふのにまだ出ない。その儘ヂリ押しに進む。愈最後の不安が擴がつて來て失敗つたと叫びたくさへなる。80米頃からであつたらう。宮崎の頭が一寸出て來たと思つたら、急に身體が伸びた。がその時はもう宮崎は身體がゴールにぶつかつて居た。カリリのスパートは猛烈ではあつたが、あの時の崩れる様な彼の最後を思ひ出すと共に、こんなレースでは力と技の外に、もう一つ心の粘りと云ふ要素が必要である事を痛感する。

恥しいけれども百米の決勝ではこれだけしか印象がない。無意識に機械的につけてるスコアを後から見ると経過は何とでも詳しく書けるけれど、此レースでは此だけを見るのが精一杯であつた。レースが終つて隣りに居つた米國のコーチのキツバスや、後に居つたデューク、カハナモクから御祝ひを云はれて握手をする時に手が震へて困つた。誠に恥しい話である。

日本チームのピンチ

レースの始まる少し前から大横田が病氣であつた事とその後は静養を第一としなければならなかつた事は實に痛手であつた。四百の豫選で大横田が粥腹でフラフラになりながらもとにかくクオーリファイ

されて安心したが、その夜は（水上競技第三日）實際日本泳チームにとつての危機と云つてよかつた。四百の組合せを見て全く色を失つた。準決勝の第一組は横山、ライアン、タリス、ギルフラ、大横田、コストリ、の六人、横山と大横田の二人はどうしても残さなければならぬし、コストリだけは安心が出来るとしても、タリスもギルフラも、豫選の前半の成績から見てのライアンも、皆強敵だ、之ぢや普通の身體でも決勝より苦しい。まして大横田の身體に餘力のないには困つた。病氣は軽くて癒つて居つたので、本人は案外元氣では居たけれどやつと重湯でなしに飯が食へる様になつただけの身體が心許なかつた。

リレーをどうする

四百だけでも心配なのに八百リレーをどうするかがもう一つの苦勞であつた。米國チームの實力は殆ど分つて居つた。前日に最後の豫選をやつた結果ギルフラが調子が悪いし、恐らくフィッスラー、ブース、カリリ兄弟になるのであらうと思つて居た、結果に於てはたゞ順序が違つて居ただけだつたが、此の連中が作り得るタイムを豫想して見ると、九分八秒と云ふ事が出来た。此に對して此時の我々チームは八百米リレーをどうしやうと考へて居るよりは、宮崎、豊田、遊佐ときめてアンカーは無理ではあるが横山にやつてもらはねばならぬと極めなければならなかつた。此のメンバーで何とかして押切らなくてはならぬ破目となつて終つたのである。

彼 我 の 勢 力

此のメンバーも決して弱いとは考へられぬけれども、安全率をとつて考へて見ると、宮崎も二百はちつとも泳いで居ないし、たゞ十五秒臺で一二回しか泳いで居らぬ、豊田、遊佐は練習中に十五秒を出して喜びはしたがその後は休養期であつて二度と試して見る譯には行かなかつたし、レースの場合に相當行くではあらうけれども確實の所を押へると宮崎二分十六秒、續く二人が十七秒と思はなければなるまい。かうして見ると米國とは三人目までのレースは殆ど互角で、勝つ爲にはラストを是が非でも守つてくれる人として横山を立てなくてはならぬ。四百も大横田一人では心配ではあるけれど先八百米リレーを何としてでも失ひたくない。

巴里以來の念願

四百に勝つ事も八百リレーに勝つ事も勝つ事は同

じであらう。殊に百米に勝つたのだから何とかしてリレーに勝つて短距離王國を誇る米國を完全にとつちめてやりたい、巴里の大會以來、此のリレーのみを目指して居たと云つてもよいのであるから、何とかして之に勝ちたかつたのである。豫選のタイムは米の八秒に對して日本は強氣で考へれば三秒位までは行くが、實戦となればどうしても控へ目に考へなくてはなるまいと思ふのでどうしても六秒位と考へたかつた。メンバーも此以外にはどうも無理があるので、とうとう此の四人と接戦になるだらうから頑張つて呉れと頼んだのである。今から考へればおかしな話であるが、實際リレーの前日八月八日の夜は重苦しい氣持であつた。

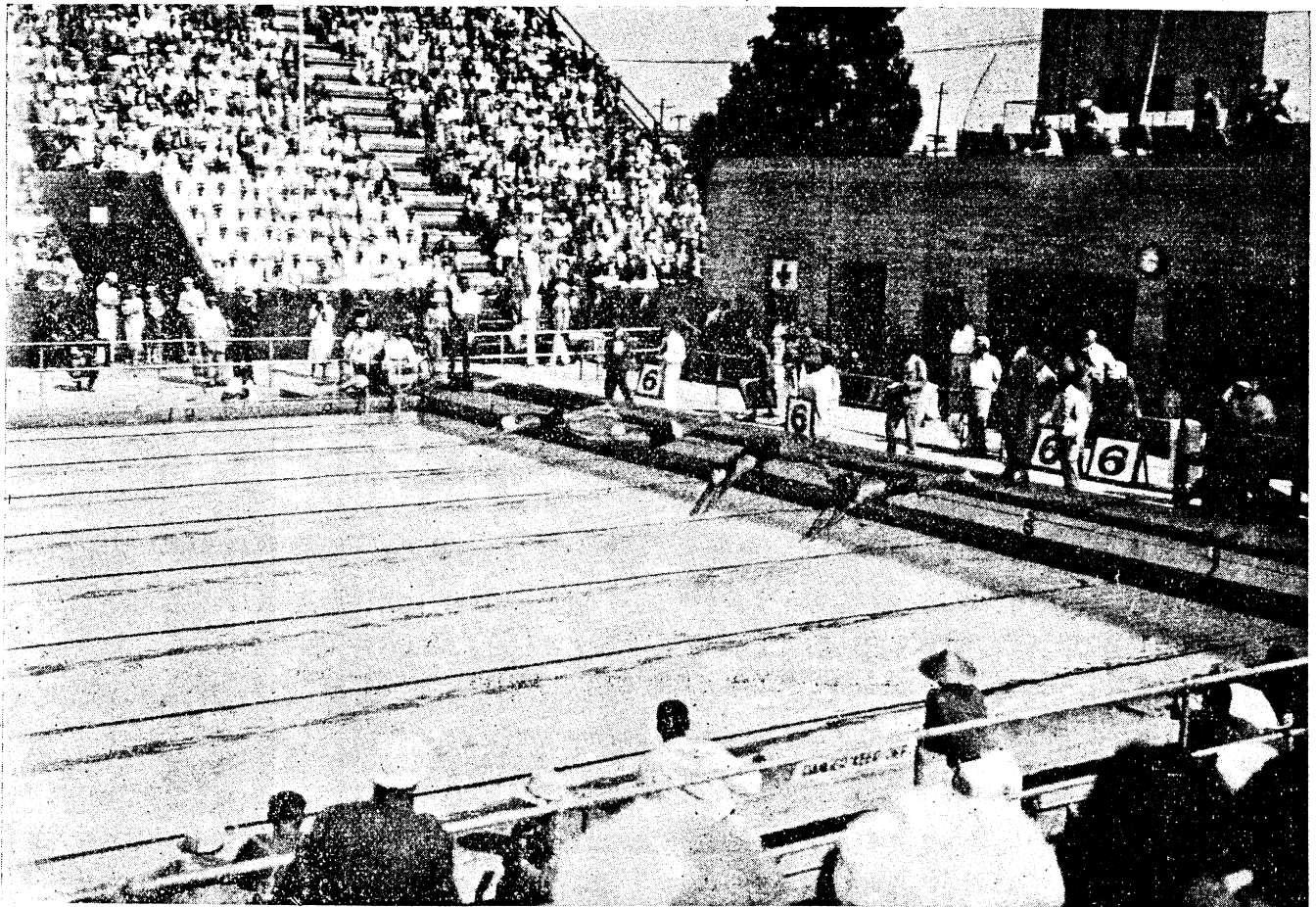
リレー・モンタージュ

然し九日朝の四日の準決勝には大横田が案外元氣で、とにかく通つたので胸が急に廣々としたし、午後の八百リレーが實に意外な事になつて終つて有頂天になつた。土地つ子でなれてる筈のブース（ハリウッド俱樂部）がいつもは十八秒まで行くのが、宮崎のペースに釣られて一緒に泳いでへばり、二十秒もかゝつて終ひ、之に反して確實な所は十六秒、まあ十五秒半では泳ぐであらうと考へて居た宮崎が實に十三秒八で泳いで終つた。二番の遊佐が引繼ぐや否や恐しく早いピッチで始めから飛ばす、あゝ此は困つた事になつたと思つて、いま浮くかいつへばるか心配して居ると、とうとうそのまゝ押切つて終つた。大體こゝで勝負がついて終つてあつけない事になつたが最後のマイオラ・カリリが約二十米もあけられて居たのを見る見る内に前半で十米も追つめた時には随分目茶をやるなどは思ひ乍らも、どうなる事かと心配させられて終つた。

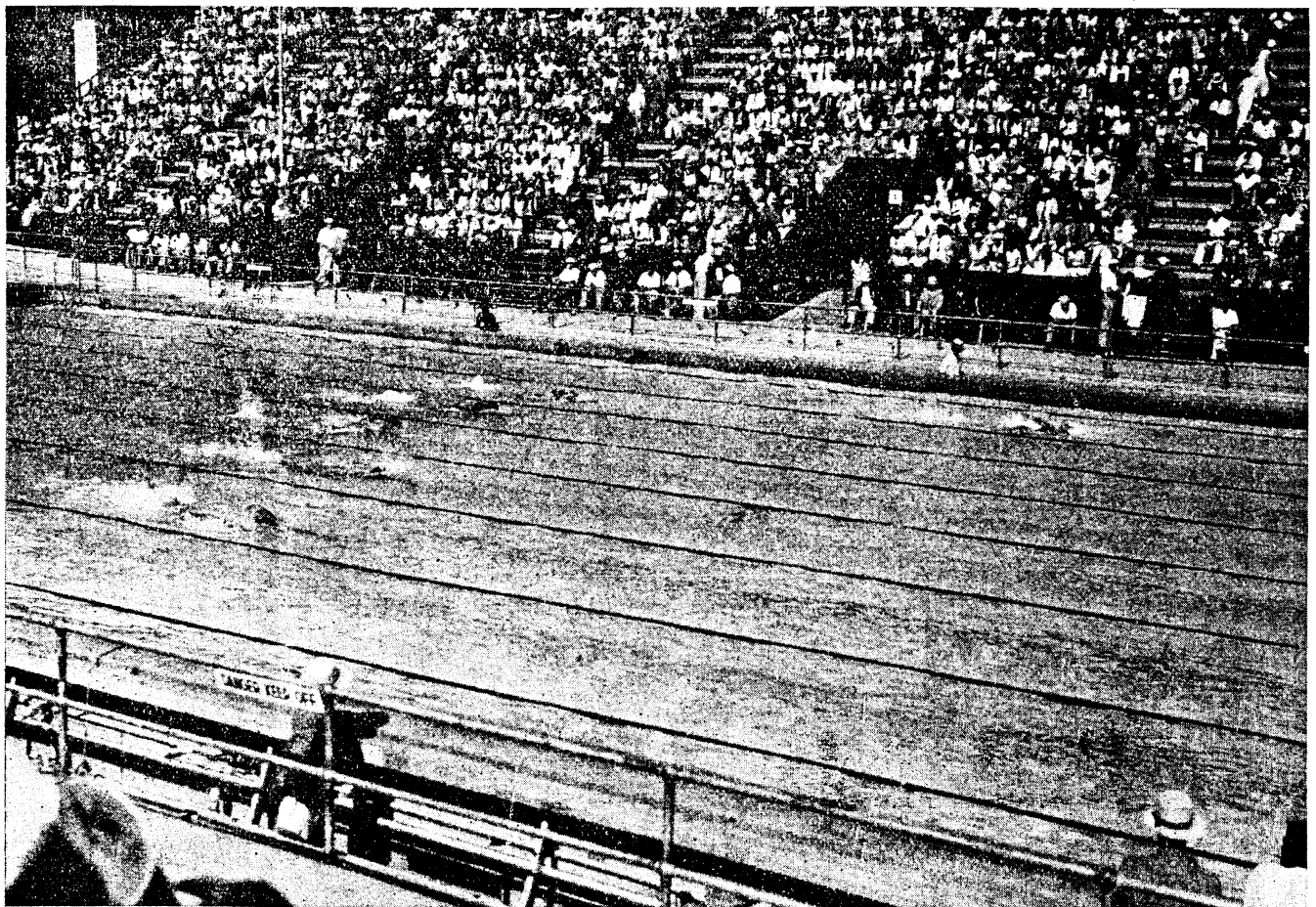
水上第四日を顧る

全くこんな大レースになるといくら呑氣な人間でも苦勞性になり、確實だ、安心だとは思ひ乍らも選手がゴールにつくまでは安心なりかねた。要するに日本選手は益々調子に乗つてアンカーの横山までが正直に二十米も離れて居るのに死力を盡して頼んだ通り頑張つていつもよりよいタイムを出したのに對し、米國は一番のブースからしてペースを亂されてマイオラ・カリリを除いては皆のタイムがいつもより悪く、非常な大差となつて終つたのであつた。此の日は續いて前畑が二百米平泳決勝で斷然二着に喰ひ込んでよい事が重つた。こゝまでは順調でよかつたが、此の朝の四百の準決勝に於ける頑張りや八百

男子 4 0 0 米 決 勝



上、スタート 下、175米に於ける形勢



リレーにも横山を潰してしまつた事は致し方がない事であつた。それで大横田は病後である上に孤立無援の形となつたのみは案外彼が元氣な事である。

四 百 受 難

翌日午後の四百の決勝はつらいレースであつた。スタートするや否やタリスが又もや飛出して行つた。茲に又もやと云ふ事に對して註を入れなければならぬが、此の種目でタリスは世界記録保持者たるの名譽を死守せんとする決心で、水着の胸には世界記録章であるバッヂをつけ、豫選の時から我々から考へると無理と云ふ事が出来る泳ぎ方で、終始強氣で始めから飛出してレースをやつた事に對しては敬服せざるを得なかつた。決勝の時には殊に素晴らしい速さで飛出して行つた。二百米で三米、三百米では四米近くもリードして居つた。二百米の頃から限り無い不安がきざし初める。あまり抜かせ過ぎるぞと思ふ。クラブ、大横田は此の間終始接戦で二百まではクラブに一米位リードされて居たのを二百五十あたりからスパートして約半米位はつめたかと思へたが三百のターンでは又クラブに離されて終つた。そして恐しく大横田のへばりが見える。これがいつもの大横田だつたらと思はずには居られなかつた。クラブは多分此の邊までは寧ろ大横田をマークして居たのに違ないけれども、別の端のコースで非常に飛出して居るタリスに氣がついて次の五十米で追ひ始めた。此の時の力泳の素晴らしさは賞めたいが、同時に此の五十米で第二段のスパートをやつてる大横田が必死であがり乍ら一寸も出ず、苦しむ様子をも思出すと却つて癢に觸る、大横田を見て居るとスタンドの上でも一緒に苦しまずには居られぬ、然しもうあきらめざるを得なかつた。

四 百 ラ ス ト の 展 開

三百五十米のラスト・ターンの際にチラツとタリスをにらんで大きくもぐり、勢鋭く最後の頑張りを泳いだクラブ、殊に終りの二十米の追込みは大レースであつた。勿論クラブは端のコースではあつたがタリスを見ながら泳ぎ得る幸運はあつたのだが、ゴールの差は掌一枚、タリスにして見ればあきらめ切れない所であらう、續いて大横田が絶望的にたどりつく、横山が最後の百米で追ひ付いて大横田と殆ど同タッチ、杉本が後半で苦しいレースをしながら、往年の勇名チャールトンの最後の希望を奪つて五位となる。

敗 將 を も 評 價 せ よ

全く四分四十八秒臺のタイムを出したクラブ、タリスの健闘を賞めるに吝かなる者ではないが、とにかく口惜しい事は口惜しい。練習中に四十九秒臺を示し得た大横田。又練習中に人一倍身體を大切にされた彼。レースに誰彼が皆戦前より調子よかつたのだから、若し病氣しなければ、等と思はず愚痴もこぼしたくなる。而して「よいスポツマンは云ひ譯をしない」事をモットーにして居る我々チームだ。かうして書く事は彼の破れた云ひ譯を試み様と云ふのでは無くて、かゝるコンディションの下に、選手も役員もベストを盡してこゝまで戦つたと報告したいのである。

泣いた後の顔で淋しく笑ひながら、日本への放送に行つて來ますと云ひ乍ら出て行つた彼は一番氣の毒であつた。

背 泳 チ ー ム 憤 起 す

我々チームは四百のたつた一つの蹉跌の爲に、氣を腐らして終ふ様な、弱いチーム・スピリットを持つては居なかつた。此敗戦は却つてチームを引締めた効果があつた。俺達が敵を討つてやると云つて出て行つた背泳の連中は實に頼もしかつた。然し之とてもゴールにつくまでは彼等が旗三本を翻さうとは、失禮ながら夢思つては居なかつた。

決勝では清川が勝つてあらうとかなり安心しながら見て居つた所へ、一、二、三着だときまつたので實に嬉しかつたと云ふだけで、レースも大して波亂は無かつた。始めから清川が飛び出し、中頃以後入江、河津がヂリヂリと抜いて勝負が極つただけである。却つて背泳では準決勝で河津をどうして入選せしめたかが問題であつたと云へるだらう。

難 關 は 寧 ろ 準 決 勝 に

豫選でゼーア(米)キュツベルス(獨)に抜かれて辛くもベスト・サードで入選した河津が、準決勝では又もキュツベルスと一緒に居つた上に清川が居り、その上米國のチャルマーが居つた。チャルマーはオリンピックプールへ來てからの練習の折にゼーアを抜いた事もあり、豫選の時には安全と見て恐しく流してゆつくり入つたので實力が分らず、一寸河津が心配になつたのである。(實はチャルマーの豫選の時の態度はいやなプレーで、癢に觸るからこいつを何とかやつつけてやりたいと云ふ氣持もあつた)

そこでコースか並んだのを幸、清川に頼んで初め

のペースを少し落して行つて河津に適した調子で行き河津を引つ張る策に出たのである。河津は氣がつかなくなつたと云ふが、前半は二人が丁度並んで行つた所を見ると暗々裡に此がうまく行つたと見える。チャルマーを完全に落して三位に入選した。

入江の強氣

次の組の入江にはゼーア(米)を十分に警戒して、抜かれた場合を想像してその時にはあはてずはどうしろ等と注意を云つてると、抜いちまへばいゝだらうと恐しく強氣なのは嬉しかつたが、とうとう言葉通り、コーチヤック無き後の米國チームのナンバーワンである所のゼーアをはつきり抜いて終つた。之で背泳でも日本が勝ると云ふ事は目星がついたが、まさか三等まで並んで入らうとは考へて居なかつた、けれども準決勝の結果が非常に背泳の連中を安心させ、殊に河津が豫選の時よりもずつと確信が出来た爲に、あゝ云ふ立派な成績を収める事が出来今回のオリンピックに於ける我々チームの最高の希望を満して呉れたのであると信ずる。

千五百米樂屋話

同じ様な事が千五百にもあつた。然しこちらは失敗の歴史である。石原田が豫選の折にチャルトンと徹底的に接戦をやつて、最後にはひいき目かは知らぬが、ほんの僅か石原田が勝つたと思つたのであるが、結果は全水上競技でたつた一回切りの珍らしい判決でデッドヒートと云ふ事になつて入選する事になつたが、準決勝が苦しい組合せになつた。タリス、クリスチー、石原田、コストリ、北村の五人であつたが、北村に心配は無いとしてもタリスの豫選のタイムは石原田よりよいし、クリスチーは豫選の時に樂に石原田を抜いて居る。始めはあまり出ないけれども終りの頑張りの強い石原田を如何に救ふかを考へなければならぬ。そこで此のヒートのキーは北村にあり、彼が始めからあまりよい調子で滑られてはタリスも、クリスチーも彼に従ふであらうと考へ、タリスに充分用心しながら千米まで出来るだけ北村にゆつくり行つて貰ふ事にした。レースは果して始めからクリスチー、石原田の白熱戦となつた。北村もよく策戦通りに、飛出して行つたタリスと石原田、タリスクリスチーの間を計つて千米までは満を持して居つたが、とうとう千米を過ぎるや石原田の力が盡きてクリスチーにうつちやられて終つた時にはがっかりした。それからは北村もさつさと泳いでタリスを超越して又もやオリンピック新記録を作

つた。

世界の眼を眩らす

千五百の決勝が一番心配無しに見られる勝負ではあつたが、取越し苦勞をすれば限り無いもので、牧野と北村があまり張り切つて始めからせり合ふ結果は、此前のオリンピックの四百の時の様に漁夫の利を占められる虞は充分あるので、失敗すれば此だけであると考へた。そこで二人には四百米までのラップタイムを示して必ず此ペースを守る様に命じた。そしてよく守つてくれた。それから後の二人の火の出る様なレースはたゞ世界の驚異であつた。最後の百米で北村が一挺身リードして居たのを牧野が、ゴール二十五米前で一旦並んだのであつたが、ラストの二十米を北村がまるで短距離レースの様な素晴らしいスピードで泳いで遂にチャンピオンシップを獲得した。どちらも勝たしてやりたいゲームであつた。

トレ・ビヤン!! 小池

平泳は確實な種目の一つであつたが、結果を見ると實に危いものであつた。豫選で先づ鶴田が二分四十六秒二を出したのを、むづかしい顔付をして聞いて居た小池がまたそのすぐ後で、丁度同じタイムで再びオリンピック新記録とアナウンスさせたのは皮肉にさへ響いた。準決勝では鶴田、小池が同じ組に入つて小池が美しいフォームで記録を四十四秒九まであげて勝つた。それなのにどうして決勝で負けたかは、随分種々と取沙汰されて居る様であるが、事實は小池とても勝を譲つたのでは無くて、小池が自分のペースを自分だけで出せなかつたと云ふ若さのせいであると云つた方が正しい様である。

鶴田選手權を守る

準決勝の時のレースの仕振りは前半の速い鶴田にリードさせて置いて後半百三十から百六十へかけての滑りと、ラストスパートの強味で抜いてあの記録を作つたのであつた。小池は決勝に於ては世界記録をひそかに心に抱いて、再び此の事を繰り返さうとしたのであるが、泥鰌が柳の下に居なかつたと云ふ譯である。即ち鶴田が前半を約一秒落して來たのを小池が氣付かずに落付きすぎて、記録を作る爲には失ふべからざる二秒を前半に失つて、前半に得をした鶴田に美事に逃げ込まれて終つたと云ふ譯である。こんなレースであつたから上から見て居ると氣が氣でない。始めに獨逸のジータスが飛出したのはあんまり心配はしなかつたが、百米の時にイルデフ



Olympic pool に於ける日本女子チーム

左から 前畑 小島 横田 松澤 守岡 荒田 杉本

オンズが鶴田、小池をリードした事と、後半で二人が之を抜いてから百六十あたりで再びイルデフォンズがスパートし、鶴田の肩の邊まで喰ひ込んで来た時には、又彼に喰はれたかと極東大會の悪夢にうなされた次第であつた。

たゞ意氣のレース

もう一つ平泳で特筆したいのは準決勝に於ける中川の頑張りである、ジータス、イルデフォンズ、スペイン、中川と云ふ組合せでは中川が落ちて不名譽にならない顔振れである。百五十米では、中川が約一ストローク遅れて居たが目茶目茶に頑張つて、スペインが百七十あたりでは稍中川を離しかけたのを又追つめて、ラストでスペインは大きな飛び上りタッチをやつたにも拘らずタッチの差で、中川が三等に入つた。

スペインが弱くなつた事を感じるよりも、カナダ所屬でありながらカナダ人から仲間あつかひにされず、スタンドでも我々のチームや米國とばかり一緒に居るスペインに國の名譽にかけてと云ふ意氣の足りなかつた事。即中川とスペインの意氣の違ひであつた事を感じるのみであつた。

日本女性の爲に

平泳の序に女子の平泳もつけ加へて置かう。前畑が豫選で英國のヒントンを破つたのは、世界記録保持者をやつつけたと云ふ大きな自信を興へた事は確かだつた。その上に参加者が少なかつたため、準

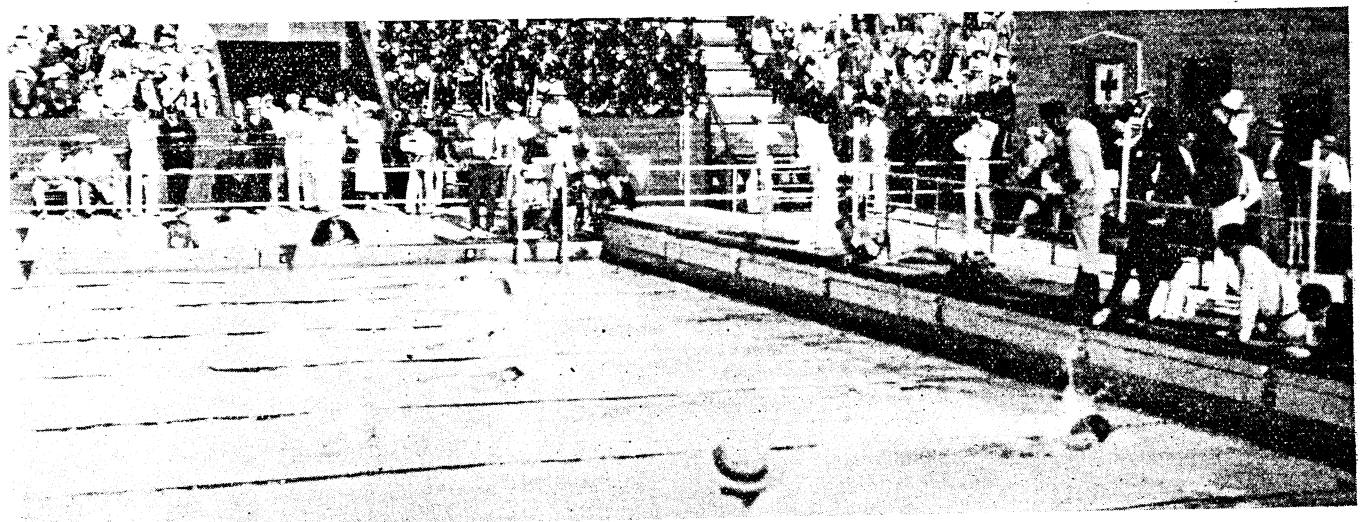
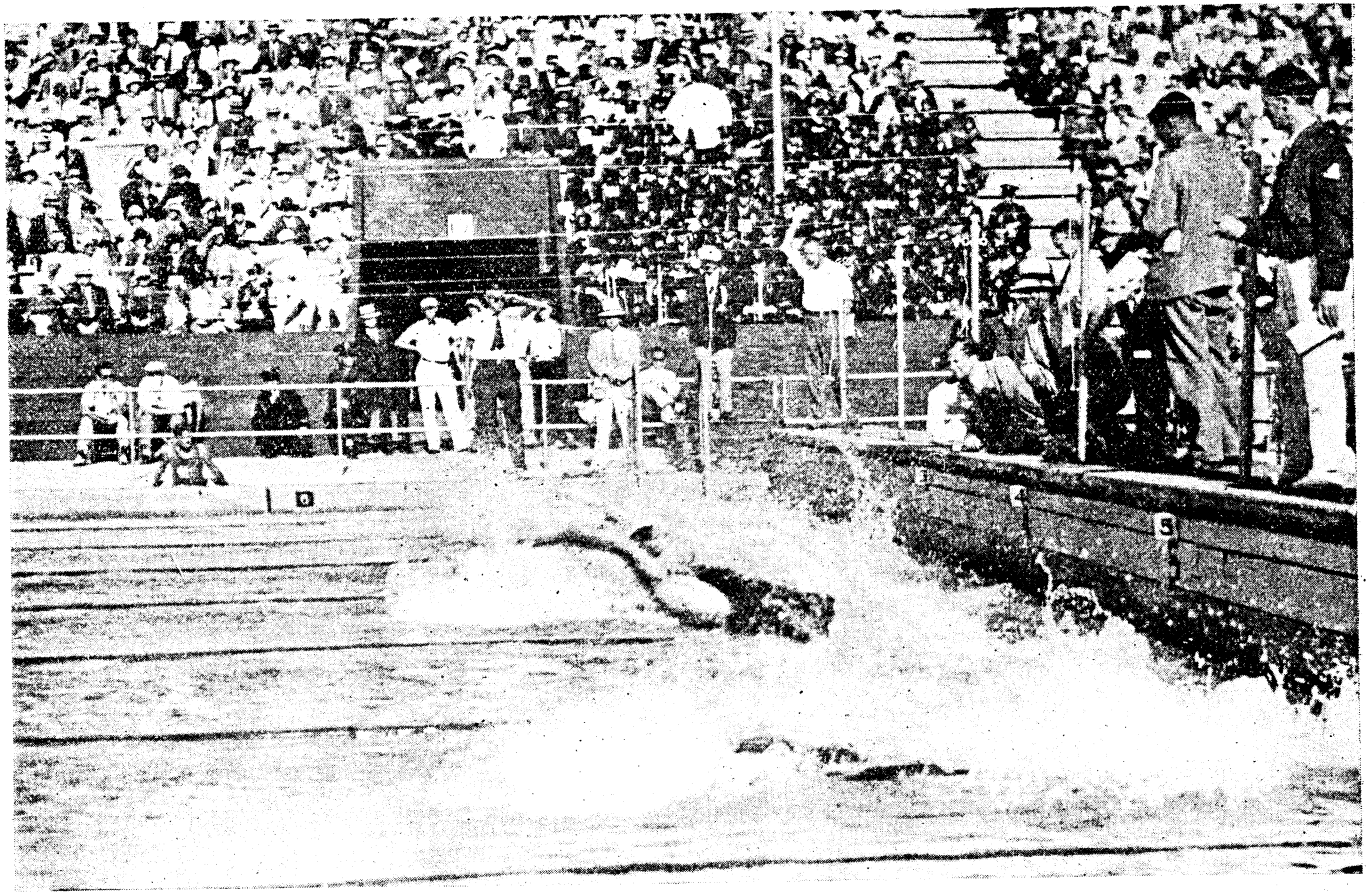
決勝が省略されたので、豫選を終つてから決勝まで三日間の餘裕があつたのは、體力を貯へるのに好都合であつた。決勝のレースはスタートから、濠洲のデニス、丁抹のヤコブセン、前畑の三人の平行で、終りまで此の形勢であつたが、ゴール前十米、前畑の息もせぬ様な早ピッチのスパートで、デニス、ヤコブセンが一線でせつて居る間に割り込んだのは大手柄であつたもう五米も間があれば一着になつたであらう。杉本さんに聞くと始めから前畑が十秒を切る確信はあつたさうであるが、六秒四は素晴らしい事であつた。今回のオリンピックで日本女性として唯一回日章旗を掲げ得た喜びはさる事ながら、プール前のアパートメントに臨時に借りた控室では女子チーム一同泣いて嬉しがつた。

女子リレーと背泳

女子百米の豫選に腕だめしに出た結果を見ると、加奈陀には勝てるだらう、そして四位は確實と見られて居たが、結果はその加奈陀と競つて五位であつたのは残念であつた。

もう一つ女子チームで残念であつた事は背泳の横田で、此も準決勝が無かつたのであるから、豫選の第一組に出ないで第三組に居つたならクーパー(英)を抜いて二等になる可能性があり、決勝にも出られたかも知れぬと思ふ事である。

その外思ひ出せば限り無く種々な事があるが、別に筆を改める事にしたい。



100 米 背 泳 決 勝

上圖スタート、下圖ゴール直前、コース、(1)河津(2)入江(3)セーフ(米)(4)キユツパース(獨)(5)カーバー(米)(6)清川

日本 競泳發達史

市 村 魁 山

第一章 競泳勃興時代 (自明治年代 至大正十一年代)

第三 覺醒期の競泳界

(3) 女子競泳創始及泳法統一(大正11年度)

前年上海の惜敗は極東覇者の夢を破られ、而かも舊記録を一掃し得ずして、本シーズンを迎へねばならない。退嬰か反撥か、わが競泳界は大切な時期に當面した。

従來の日本の競泳レコードは皆殆んど純日本泳法で作られたもので、又外國泳法に就ては皆夫々研究されて居ますが、まだ充分其價値は認められぬやうで各大家に依つて各々意見は異つて居ますが、結局日本人には在來の泳法が適して居ると云ふに一致してゐるやうです云々——(大正十一年八月一日發行スポーツ第四卷八號)

斯かる説は、畢竟新泳法に對する認識不足の結果ならんも、習練途上の斯界に取つては他山の石となつたのである。かくて茨木中學の驚異的躍進は競泳に於けるクロールの地位を確立するに足り、一方濱名及び全國學生大會は内容充實して斯界の權威となり、また體協全國大會も第七回を重ねて堅實な地歩を占むるに至り、前途洋々一點の不安もなき活況を呈した

殊に祝福すべきは女子競泳會の出現であらう、當時男子の進歩に引換へ女流方面は寂寥微々として振はず、一般も冷視する傾向があつた。萬朝報社は之

れに鑑み本年全國女子競泳大會を開催して、斯界の啓發に努力する事と爲した。次いで大阪體協は男女を網羅せる日本水上選手權大會を創め東西期せずして指導開發に當つたので、茲に隆興の緒につく事が出來た。關東江島歌子、關西永井花子、入江廣子等は最初の擡頭者として黎明の斯界に乗り出し、後進輩出を促したのである。

◇大毎中等校競泳會(11年8.13濱寺)

此の回に活躍して將來を囑目されたものは、

高石 勝男(茨木) 50.100 一等

木村 義孝 茨木) 200 一等、800 三等

杉原 茂(茨木) 50.100 三等

奥野 良(田邊) 400 一等 800 二等 200 三等

齋藤巍洋を立教に送つた岸和田は、新人栗田良作が出陣せしも志を得ず、和中の闘將西本龍三、先年濱名で活躍した淺田斐彦、齋藤劔次は振はず。茨木は石田、上田、坂倉を助ける新進の奮泳により廿二點を獲得して優勝し、田邊中は次位を占む。

50米 (1) 高石 勝男 茨 31.2

(2) 愛須 林三(田)(3) 杉原 茂(茨)

100米 (1) 高石 勝男 茨) 1:12.4

(2) 木村 忠夫 田(3) 杉原 茂(茨)

200米 (1) 木村 義孝(茨) 2:51.4

(2) 宮本幾一郎(田)(3) 奥野 良(田)

400米 (1) 奥野 良(田) 6:25.0
(2) 松上龍太郎(茨)(3) 宮本幾一郎(田)

800米 (1) 石田 恒信(茨) 13:35.3
(2) 奥野 良(田)(3) 木村 義孝(茨)

110背泳(1) 上田 治(茨) 1:27.2
石田の體協記録 1:28.0を破る。
前年濱名の自己記録 1:26.6に及ばず。

200平泳(1) 坂倉 巖(茨) 3:12.2
石田(體協) 3:14.4を破る、されど石田(濱名)の 3:11.6に及ばず。

3000米リレー (1) 茨中 51:17.0 (2) 田邊 52:03.2
以下、富田中、和歌山中、七尾商
翌十四日の一般競泳會では、下の快記録が出た。

田中 慶雄(濱寺) 100米(豫選) 1:7.3
林 喜男(京武) 1500米 24:9.0(體協24:28.4)
濱寺水練校組 400米リレー 4:16.3(體協4:49.6)
(齋藤巍洋、上田治、杉原茂、田中慶雄)

京都武徳會の林喜男は既に八月四日五日の同會水泳會で、四百碼 5分30秒、八百碼十一分廿五秒二を出し鋭鋒を現はしてゐた。

◆夜間競泳の嚆矢(11年 8.14YMCA)

東京専門校級學生によつて本邦最初の試みたる夜間競泳が行はれた。

40碼 小高 加茂 20 2 100碼 小高 加茂 61.0
220碼 小野田一雄 2:43.3 440碼 松澤 一鶴 5:54.1
880碼 小野田一雄 12:14.0 100碼背 五味金司 1:26.0
220碼平和久山修二 3:19.3 160碼リレー 1:28.4

◆戸田水泳大會(第6回 8.15.16戸田)

第一日は 200米自由型で降雨の爲め中止、翌十六日續行、茨木中の新進を以て組織する帝國水友會と石毛、五味等の磯子水泳とが覇を争ひ、結局高石、坂倉村松、石田を有する帝水が壓倒的に大勝した。

50米 高石 勝男(帝水) 33.2
100米 高石 勝男(同) 1:25.3
200米 石毛 政信(磯子) 2:58.2
400米 石田 恒信(帝水) 6:30.4
800米 石田 恒信(同) 13:54.0
1500米 石田 恒信(同) 24:25.3
100背 五味 金司(磯子) 1:34.2
200平 坂倉 巖(帝水) 3:20.3
200米リレー (1) 磯子 2:20.2(高橋、五味、石毛、後藤)

800米リレー (1) 帝水(高石、石田、坂倉、村松)
得點 31 帝國水友會 19 磯子水泳場
5 東京帝大 4 東京YMCA

濱名其他の有力團體の参加なく、他の大會に壓倒

されて凋落した。片拔手時代の老武者に取つて北條と共に果敢ない思ひ出の種となつた。

◆濱名灣全國競泳大會(第2回 8.19.20辨天島)

前年第一回を創始して成功を収めた協會は、戸田其他の遠征を取止めて、只菅英氣を養ひ來つたが、今年度こそ覇權を獲んものと凄しい勢ひを示した。東京から特に飯田光太郎、梅澤親光の兩氏を招いて審判員となし、田畑政治監督小野田一雄主將の下に、新顔として田中秀吉、磯部勝治、清水實、稻勝英夫、稻勝勝孝、山内辰雄を起用し、以つて茨木の新顔田中慶雄、高石勝男、木村義孝、上田治に對抗せしむ、此の間に小高、萬里小路、淺田、和久山等斯界の古參が割込まんと窺つて居る、參加者は京都武徳、銚子商、横濱千葉、拓大、立大、明大、早大等に於て大成功を収めた。十九日豫選、廿日快晴に恵まれて決勝を行ふ。

50自

1. 田中 慶雄(茨木) 30.0
2. 清水 實(濱名) 31.0
3. 高石 勝男(茨中) 31.0

100自

1. 田中 慶雄(茨中) 1:08.0(大會新)
2. 高石 勝男(茨中) 1:11.6
3. 山内 辰雄(濱名) 1:11.6

茨木の新進田中の活躍は將來恐る可きものであつた。

200自

1. 田中 秀吉(濱名) 2:46.0(大會新)
2. 磯部 勝治(濱名) 2:48.4(大會新)
3. 木村 義行(茨中) 2:51.2

400自

1. 小野田一雄(濱名) 6:03.0
2. 磯部 勝治(濱名) 6:04.4
3. 桂 正一(京武) 6:51.2

800自(鵜飼12:39.0を破る)

1. 小野田一雄(濱名) 1:32.8
2. 林 喜男(京武) 12:36.4
3. 桂 正一(京武) 12:55.4

1500自(則未24:58.4を破る)

1. 林 喜男(京武) 24:13.0(大會新)
2. 小野田一雄(濱名) 24:15.6(大會新)
3. 松上童太郎(茨中) 25:45.4

100背

1. 上田 治(茨中) 1:22.8(大會新)
2. 稻勝 英夫(濱名) 1:29.6
3. 稻勝 孝(濱名) 1:30.6

200平

- 1. 坂倉 巖 (茨 中) 3:16.8
- 2. 齋藤吉之助 (茨 中) 3:27.0
- 3. 細井 精爾 (辨 天) 3:37.6

200 米リレー (以下大會新)

- 2: 5.2 新濱名灣游泳協會 (清水、山内、稻邊、小野田)
- 2: 6.9 茨 木 中 學
- 12:0.6 京 都 武 德 會

800 米リレー (以下大會新) (總得點)

- | | | | |
|-----------------|---|-------|--------|
| 11:19.0 濱 名 游 協 | } | 27 濱名 | 1 安房 |
| 11: 0.0 茨 木 中 學 | | 21 茨中 | 1 辨天游泳 |
| | | 8 京武 | |
| 11:31.0 安 房 中 學 | | 2 濱寺 | |

濱名茨木兩軍新進の大接戦に終始した。新顔の林喜男は千五百米に老巧小野を破り、秋の調布全國大會では中長距離三種目に勝ち、短距離の田中慶雄と共に將來を囑目された。

茲に戸田遠征以來怨を呑んだ濱名は、多年の宿望を達し、堀江審判長以下感喜に満ちた。好敵手茨木軍の杉本傳氏はは心から濱名の進境を祝福し、共に榮えある戦績を語らふ。斯くて本會は幾多新人の登龍門となり、日本記録を左右するに至つた。

◇全國專門學校對抗競泳大會

(後に全國學生水上競技大會9月9.10調布)

萬朝報社主催の第二回大會である、末弘博士は第一回の時より昭和の今日まで連綿として審判長たり第一日は午前拾一時十分豫選を開く、折から初秋の空晴れて十七校壹百餘名の健兒は意氣大いに昂る。

第二日も快晴、武藏野の微風に戸山學校軍樂隊の奏樂を送る、水溫29度午後一時五分決勝の幕を切つて落した。

採點法は前回は選手少かりし爲め、321、繼泳は531であつたが、此の回は5321、繼泳は3642と變更さる。

新顔は岸和田出身の立教齋藤巍洋、安房中出身の早大萬里小路、明大藤本、松山高校の淺田である。

50米自由形 30.4 (豫選29.6淺田)

- (1) 淺田 斐彦 (松山)
- (2) 小高 加茂 (早)
- (3) 清水吉之助 (早)
- (4) 森 豐 (明)

五十米日本記録保持者淺田は朝香宮カップを獲得して貫録を示す。明大和久山、慶大今村、一高原は落つ

100 米自由形 1:8.6

- (1) 小高 加茂 (早)
- (2) 和久山修二 (明)
- (3) 鈴木 傳明 (明)
- (4) 森 豐 (明)

豫選に一分九秒四を出した淺田は決勝に於て、

小高に次ぎ二着であつたが、コースロープ無かりし當時の事とて、他のコースを犯してオミットされた。慶大今村、高師脇崎は落つ。

200 米自由形 2:47.4

- (1) 小野田一雄 (拓)
 - (2) 萬里小路通孝 (早)
 - (3) 鈴木 傳明 (明)
 - (4) 土方 龍雄 (慈大)
- 前年の覇者松澤出でず、小野田、萬里小路の爭覇であつたが、小野田美事なピッチで勝つ。

400 米自由形 6:16.6

- (1) 萬里小路通孝 (早)
 - (2) 小野田一雄 (拓)
 - (3) 松澤 一鶴 (一高)
 - (4) 本井 功 (立)
- 當日の呼物で萬里小路、小野田、松澤の斯界の勇者の巴狀戦であつたが、小野田意氣揚らず新顔の萬里小路に榮冠を奪わる。慈大標口一成、七高今村興善は落つ。

800 米自由形 13:28.6

- (1) 齋藤 巍洋 (立)
- (2) 松澤 一鶴 (一高)
- (3) 堀 安 治 (高師)
- (4) 今村 興善 (七高)

100 米背泳 1:29.0 (豫選1:27.5齋藤)

- (1) 齋藤 巍洋 (立)
- (2) 五味 金司 (早)
- (3) 大橋 春忠 (早)
- (4) 藤本 秀松 (明)

200 米平泳 3:32.2

- (1) 藤本 秀松 (明)
- (2) 鴨下 義次 (早)
- (3) 森 (拓)

早大宇都宮、立大の大野は落つ。

400 米リレー 5:5.8

- (1) 明 治 大 學 (森、鈴木、藤本、和久山)
- (2) 早 稻 田 大 學 (萬里小路、小高、五味、清水)
- (3) 立 教 大 學 (野村、本井、坂本、齋藤)
- (4) 拓 植 大 學 (千葉、森、松山、小野田)

明大の二番鈴木は早大小高の爲め二米リードされ明大危ふしと見えたが、ラスト和久山盛り返しタッチの差で早大を破り一着となる。

得點 32早大 23明大 15立教 11拓大

7一高 5松高 2高師 1七高、慈大

四百と八百を除き他は全部大會新記録である、立大のフレッシュマン齋藤は個人得點10點、次は早大の小高萬里小路、拓大小野田の各8點である斯くて第一回の覇者明大は遂に早大に王座を譲り其後七年間早大の壓倒的優勢に勝運恵まず、齋藤を迎へた立教は氣勢大いに揚がり、連年ワークホースとして早明の堅陣をおびやかす、今村榮三以下の慶應軍は微々として振はず、水陸兩棲の益田弘まで引出したが得點するに至らず、斯界の先輩高師は齋藤兼吉の黃金時代に引換へ、形勢振はず往年の弱者早稻田と地

位を顛倒した感がある。

◇第七回全國競泳大會 (11年9.16.17調布)

體協の例會である、宿敵茨木を破つた濱名軍は小野田主將以下磯部、清水、田中、山内、稻勝の新鋭を送り、

茨木軍は入谷以下田中慶雄、木村義孝、高石勝男、背泳に上田治、坂倉巖、平泳に石田、坂倉を以て難攻不落の堅陣を構へ、東京 YMCA は小高、和久山、五味の老巧に俊敏齋藤巍洋、兒玉博を立たしめ、實に内容充實した大會となつた。

- 50米 30.4
(1) 小高 加茂(YM) (2) 清水 實(濱名)
(3) 田中 慶雄(茨中) (4) 山内 辰雄(濱名)
- 100米 1:9.4
(1) 田中 慶雄(茨中) (2) 木村 義孝(茨中)
(3) 山内 辰雄(濱名) (4) 和久山修二(YM)
- 200米 2:46.6
(1) 磯部 勝治(濱名) (2) 田中 秀吉(濱名)
(3) 高石 勝男(茨中) (4) 萬里小路通孝(YM)
- 400米 6:7.2
(1) 林 喜 男(京武) (2) 小野田一雄(濱名)
(3) 桂 正 一(京武)
- 800米 13:5.8
(1) 林 喜 男(京武) (2) 小野田一雄(濱名)
(3) 桂 正 一(京武) (4) 石井 義治(安房)
- 1500米 25:34.2 (豫選 25:22. 林 兒玉)
(1) 林 喜 男(京武) (2) 堀 安 治(高師)
(3) 栗 谷(長崎) (4) 兒 玉 博(YM)
- 100米背選 1:25.4 (豫選 1:22.6 上田)
(1) 上 田 治(茨中) (2) 齋藤 巍洋(YM)
(3) 坂 倉 巖(茨中) (4) 五味 金司(YM)
- 200米平泳 3:23.6
(1) 坂 倉 巖(茨中) (2) 石田 恒信(茨中)
(3) 中村喜久雄(茨中) (4) 齋藤 巍洋(XM)
- 200米リレー 2:03.0 (大會新)
(1) 茨木中學 (田中、高石、木村、入谷)
- 800米リレー 11:34.4
(2) 茨木中學 (高石、田中、木村、入谷)
(3) 東京YMCA
(3) 和歌山中學 濱名氣 鐘

濱名大會に小野田を一蹴し、彗星の出現を驚かせた京武の林喜男は、初陣に拘はらず群雄を破り中長距離を獨占した。

◇全國女子競泳大會(第一回8.12.13調布)

萬朝報社は女子競泳奨励の爲め第一回大會を創始せしも全国的に徹底せぬ爲め、京濱間の参加に止ま

り關西方面の参加を見るに至らなかつた。されど第二回目より京都武徳會の参加ありて氣勢大いに揚がる 第四回大正十四年度に至り水上聯盟主催の第一回全日本選手權大會に女子競技が加へられるに及び頃に活氣を呈し全国的に隆興を來したかくて多大の貢献を爲した本會も茲に其の目的を達したので昭和二年第六回を以て目出度く幕を閉ぢた。

(審判長後藤武保、計時主任梅澤親光。)

第一回大會成績

- 20米 17.0 (1) 岩崎家壽子 (2) 野田 節子
(3) 萩原 梅野
- 50米 50.4 (1) 栗原 つね (2) 高橋 歌子
(3) 中根みよ子
- 100米 1:58.8 (1) 江島 歌子 (2) 淺原よし子
(3) 五月女年子
- 200米 4:2.6 (1) 岩崎家壽子 (2) 江島 歌子
(3) 市村 常子
- 100米平泳 2:17.6 (1) 栗原 つね (3) 高麗 みち
(3) 武市 梅代
- 200米リレー 3:46.6
(1) 磯子水泳場 (高橋歌子、平戸千代子、
後藤愛子、五月女年子)
(2) 神奈川體育會 (木原みや、栗原すゑ、
前川かね、野田節子)

第一日午前豫選、午後準決勝を行ひ第二日決勝に入る、快晴水溫29度。

スタートとターニング、泳法に於て著しく見劣りするは已むを得ない。諸嬢が關東方面最初の擡頭者として敢然名乗りを上げた功を多とせねばならぬ。

◇大阪日本水上選手權大會(第一回10.14.15茨中)

京都武徳會の永井花子、入江廣子、鷺見芳子、島村初枝等が活躍し、再後女子競泳界を東西に兩分する勢力を樹てた。

[女子の部]

- 50米
43.0 永井 花子 鷺見 芳子 島村 初枝
- 100米
1:45.2 鷺見 芳子 島村 初枝 櫻井 靜江
- 200米
4:16.6 永井 花子 櫻井 靜江 小泉 安子
- 100米背泳
2: .0 入江 廣子 鷺見 芳子 奥野 幸子
- 200米平泳
4:43.4 長田 俊江 本田さき子 布施 苑子

[男子の部]は茨木軍の壓倒的大勝に歸す、優勝者は

- 田中 慶雄 50米 29.2 100米 1:9.4

(7頁へ)

オリンピック競泳ラップ・タイム (その一)

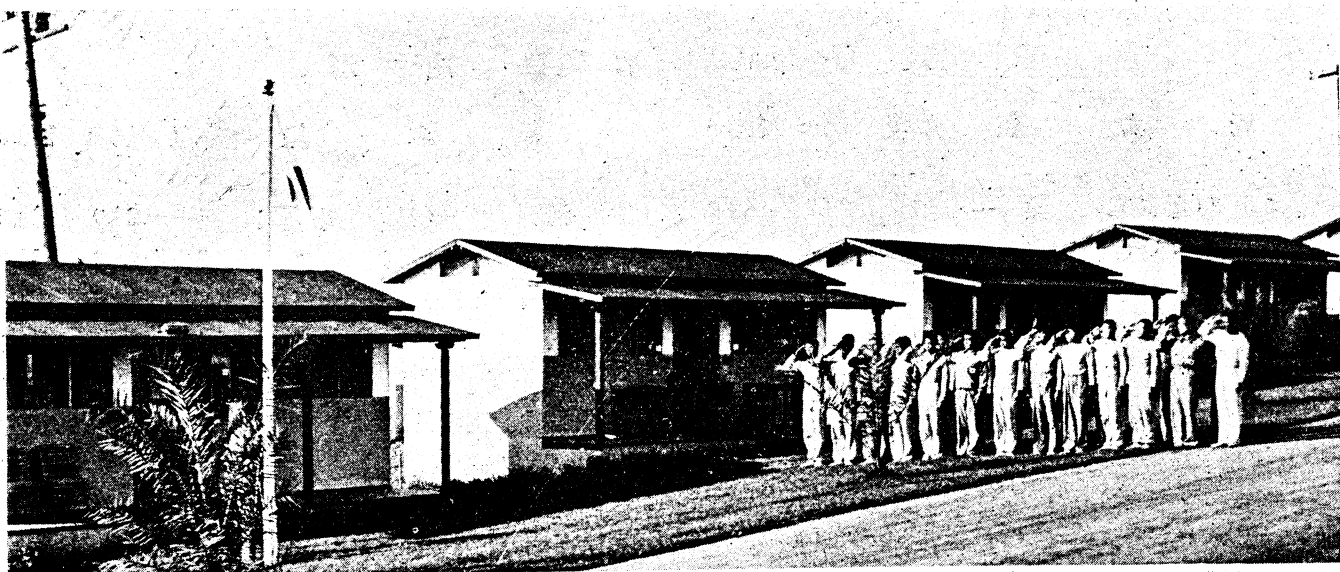
男子 100 米 自由形

氏名	組	着順	50m	100m	氏名	組	着順	50m	100m
カリリ(弟)(米)	豫 一	1	29.2	59.6	河石 達吾(日)	準決二	1	29.0	59.0
Wスペインス(加)	豫 二	1	27.8	59.3	シュワーツ(米)	"	2	28.2	59.2
シュワーツ(米)	豫 二	2	27.8	59.6	高橋 成夫(日)	"	3	28.6	59.5
河石 達吾(日)	豫 二	3	28.6	59.8	Wスペインス(加)	"	4	28.6	59.6
高橋 成夫(日)	豫 三	1	28.0	59.5	宮崎 康二(日)	決	1	27.8	58.2
宮崎 康二(日)	豫 四	1	27.4	58.7	河石 達吾(日)	"	2	28.6	58.6
宮崎 康二(日)	準決一	1	27.6	58.0	シュワーツ(米)	"	3	28.6	58.8
トムソン(米)	"	2	28.2	59.3	カリリ(弟)(米)	"	4	27.8	59.2
カリリ(弟)(米)	"	3	28.4	59.3	高橋 成夫(日)	"	5	28.0	59.2
バラニー(洪)	"	4	27.2	59.4	トムソン(米)	"	6	27.2	59.5

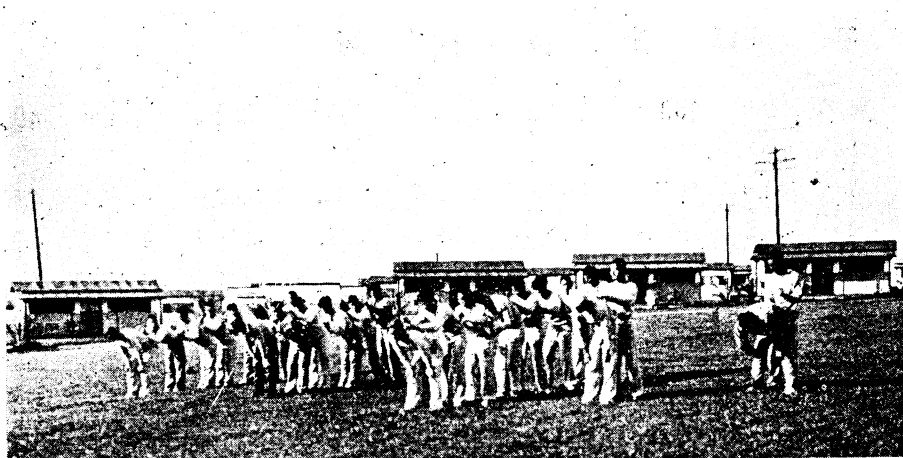
男子 400 米 自由形

氏名	組	着順	50m	100m	150m	200m	250m	300m	350m	400m
横山 隆志(日)	豫 一	1	33.0	1:09.4	1:47.6	2:25.4	3:02.6	3:40.0	4:18.2	4:53.2
ギルフラ(米)	"	2	34.2	1:09.8	1:47.8	2:25.4	3:04.0	3:41.6	4:18.2	4:53.3
クラブ(米)	豫 二	1	31.2	1:07.8	1:45.6	2:23.8	3:02.6	3:41.6	4:21.4	4:59.8
杉本 盛(日)	"	2	32.8	1:08.6	1:47.2	2:25.4	3:04.2	3:42.8	4:22.2	5:00.2
チャールトン(濠)	豫 三	1	32.2	1:09.0	1:47.4	2:25.6	3:04.8	3:43.4	4:22.4	4:59.8
タリス(佛)	豫 四	1	30.0	1:05.0	1:42.2	2:20.6	2:58.8	3:37.2	4:16.0	4:53.3
大横田 勉(日)	豫 五	2	32.2	1:09.0	1:46.4	2:25.0	3:04.0	3:44.2	—	5:06.3
横山 隆志(日)	準決一	1	32.0	1:08.0	1:45.0	2:22.6	3:00.0	3:37.6	4:17.0	4:51.4
タリス(佛)	"	2	31.0	1:05.0	1:41.0	2:18.8	2:57.0	3:35.4	4:15.0	4:52.3
大横田 勉(日)	"	3	31.2	1:07.4	1:44.4	2:22.2	3:00.4	3:38.8	4:17.0	4:52.8
ギルフラ(米)	"	4	32.2	1:09.0	1:47.6	2:24.0	3:03.0	3:40.2	4:18.4	4:55.4
クラブ(米)	準決二	1	31.2	1:07.4	1:44.8	2:22.0	3:00.0	3:38.2	4:16.0	4:52.7
杉本 盛(日)	"	2	33.0	1:09.6	1:46.0	2:23.2	3:01.6	3:40.4	4:20.4	4:59.0
チャールトン(濠)	"	3	32.8	1:09.8	1:48.0	2:26.4	3:06.0	3:45.4	4:24.2	5:02.1
クラブ(米)	決	1	32.0	1:07.6	1:44.8	2:21.0	2:59.4	3:37.0	4:13.4	4:48.4
タリス(佛)	"	2	30.2	1:05.4	1:41.8	2:18.8	2:55.8	3:33.0	4:13.0	4:48.5
大横田 勉(日)	"	3	32.0	1:08.2	1:45.2	2:22.8	3:00.0	3:38.0	4:15.2	4:52.3
横山 隆志(日)	"	4	32.0	1:09.8	1:46.2	2:24.2	—	3:39.0	—	4:52.5
杉本 盛(日)	"	5	32.6	1:10.0	1:46.9	2:24.4	—	3:42.7	—	4:56.1

オ リ ン ピ ッ ク 村 生 活



毎 朝 の 國 旗 掲 揚 式



デ
ン
マ
ー
ク
體
操

散
髪



四、水上競技の方面（つゞき）

十四年九月六日には第二回明治神宮競技東海豫選を行ひ左の諸君を東海區の代表者とした。

安藤正、三倉博、外川正、磯部勝治、野田一雄、伊藤勇、佐田徳平、片山兼吉、水野秀藏、野寄金次郎、袴田唯比古、落合芳政、田中清、清水實、竹島秋三郎、笈精一郎、杉田忠治、坂倉巖、伊藤房吉、小林知子、小野田文子、青山ちさ子、國枝美枝子等
 なほ此年はT.W.P.Cが東海代表としてウオーター・ボロ競技に出場した。其メンバーは杉田忠治、樋口一成、小林眞太郎、川口又男、坂部卯平、中山克太郎、大瀧駿三、古川喜久茂、磯部光明、遊部達郎、坂倉巖の諸君であつた。

然し例年この季節には濱名軍は振はない

大正十五年八月二十二日には第六回全國競泳大會が開かれた。この年は参加團體少く、武徳會と濱名との對抗競技の觀があつた。

武徳會は木村象雷、新井信男、尾藤正太郎、稻葉秀三其他の諸君、濱名組では野田一雄、野寄金次郎、竹林隆二、片山兼吉、松下喜一其他の諸君が出場した。

自由形及び背泳に於いては全く互角の勝負をして居たが、平泳の得點が勝敗の別れ路となつた。平泳を得意とする武徳會が再び優勝したのは自然の成り行きであつた。(此回には競技種目中から五十米を削除した。)千五百米優勝者には本井功氏からトロフィーが贈られた。

この回の新記録は

二百米 新井信男 (二分二八秒八) (武)
 四百米 竹林隆二 (五分二四秒四) (濱)
 千五百米 新井信男 (二分一五八秒六) (武)
 百米背泳 木村象雷 (一分一七秒二) (武)
 八百米リレー 濱名(一分三一秒六)
 (竹林、片山、野寄、野田)

得點は

武徳會 二五 濱名 二〇 立大 一
 濱商 一 佐鳴 一

であつた。

この數年來名古屋方面との連絡が緊密となり、七月初旬高松定一、服部崎市、見田公一の三氏の來濱を請ひ、堀江、鈴木、牧野三名當協會より出席し、高工官舎堀江宅にて協議の上東海競技聯盟を形成し其主催で八月八日辨天島プールで全日本選手權大會東海豫選を行つた。其時に選出せられた代表者は下

の通りであつた

磯部勝治、中山藤一、梶浦久藏、野田一雄、竹林隆二、片山兼吉、袴田唯比古、野寄金次郎、石河正滿、松下喜一、中野富美雄、鬼頭正雄、杉田忠治、渡邊寛二郎、大嶽正暉、柴田米八、國枝美枝子、宮野きやう、椎野順子、青山ちさ子、鈴木里子、源馬しづゑ等

其他二百米リレー、八百米リレー共濱名チーム、ウオーター・ボロはT.W.P.Cが代表した。

インター・ミッドルに濱商が優勝して當地方のために氣を吐いた。

なほ布哇に於ける全米水上選手權大會に日本から送られた六名の中に野田一雄君が加つて八百米リレーに於いて其名を馳せたのも此年であつた。

昭和二年は從來百米であつたプールの五十米に短縮し、八月二十一、二の兩日にわたつて第七回全國水上競技大會を行つたが、濱名チームを編成するに頗る困難を感じた年である。野田君は布哇へ、山本片山、望月、竹林の四君は上海に於ける第八回極東大會へ、それぞれ遠征の途に在り、一時は不安を感じたが残留組の中から稻勝、清水の元老をはじめとして磯部、野寄を中心とし、水野、袴田、土屋、田中、磯部義太郎等の新進を選出して堅陣を張ることが出来た。得點は、濱名二〇、武徳一〇、日游八、中農七、靜中一、見中一、掛中一

然し大會の内容はあまり満足し得るものではなかつたが、二百米リレーに於いて濱名チーム(稻勝、清水、土屋、野寄)が一分五七秒八、また二百米平泳に於いて武徳會の岡島武雄君が三分一一秒六といふ新記録を出した外、日游の中山藤一、掛中の鈴木伊衡、中農の宮崎正二、岡田傑其他の諸君が各其將來を期待し得るやうな活躍を示してくれたのは喜ばしい現象であり、またこの大會の貴重なる收穫であつた。

その外武徳會對濱名の水球競技を加へることによつて、從來の競泳大會は水上競技大會と改稱された。(武徳⁶-3濱名)

八月下旬のインター・ミッドルでは中農が東部豫選に優勝し、東西對抗で引分けとなつた

九月廿七日には名古屋市七本松プールに於いて報知新聞社並に日本游泳協會主催の日本選手模範水上競技大會があり、協會關係者から出場したのは左の諸君であつた。

山本操、野寄金次郎、鈴木伊衡、片山兼吉、宮崎正二、水野秀藏、岡田傑。

右の内東京及大阪の同大會にも出場した人が二三名あつた。

なほ名古屋の時には筆者は當日台臨あらせられた賀陽宮殿下のために東海地方の選手の事につき御説明申上げる光榮を得た。

また此年は小學校競泳大會(八月七日)に於いて牧野正藏、宮崎康二兩君が將來を囑望された年である。而して學校全體としては舞阪校が斷然優勢で全く他の追隨を許さない有様であつた。

昭和三年には大正十二年以來静岡縣教育會はまた同體育協會主催の縣下水上競技大會が年々開催されるのと、また全日本學生水上競技聯盟主催の通稱インター・ミドル水上競技大會が盛んになつて來たため、當地方の中等學校では學校を一つの單位とした水泳團の力が増進したので、協會としてのピック・アップ・チームをつくるよりも各學校チームを出場させた方が有意義であるといふことになり、八月廿五、六兩日の第八回全國水上競技大會は其方針の下に八月二十五、六兩日開催され、協會選手といふものは作らなかつた。

従つて武徳會、立大等も出場したが、大會の興味の中心は何といつても、濱一中と中農との接戦であつた。濱一中には片山、袴田、山本、藤野兄弟等があり、中農には宮崎、水野、鈴木政雄等があつた。それに對して見中は鈴木秀男、高橋、牧野等を出して戦つた。其結果は清新の氣が漲り、實に緊張味のある會であつた。各種の一着は左の通りであつた。

百	米	片山 兼吉(濱一中)	一分五秒八
二	百	同 (同)	二分二九秒四
四	百	米 宮崎 正二(中農)*	五分二〇秒八
千	五	百 米 水野 秀藏(中農)*	二分四〇秒六
百	米	背泳 片山 兼吉(濱一中)	一分一九秒六
二	百	米 平泳 渡邊寛二郎(立大)*	三分五秒四
二	百	米 リレー 濱一中(藤野弟、藤野兄、山本、片山)*	一分五七秒六
八	百	米 リレー 濱一中(袴田、藤野弟、山本、片山)	一分二四秒四

* は新記録である。

得點は

濱一中	三三	中農	二二	武徳	一〇
立大	一〇	日游	七	見中	五
豊橋	一				

の通りで濱一中が壓倒的に優勢であつた。

因に濱一中の近來の進出は實に著しいものがあり八月中旬のインター・ミドルにも東部豫選及び東西對抗競技に於いて覇を稱へた。また一兩年前から

濱松高工でも中等學校水上競技大會を開催し、各中等學校が競つてプールを建設し、益々水上競技界は多事になつて來た。濱松高工の中等學校大會、學校プールの建設、濱名灣沿岸の小學校の概況等については項を別にして書きたいと思ふ。

また此年はアムステルダムに第九回オリンピック大會が開かれた年で、野田一雄、竹林隆二の二君が日本を代表する人々の中に加つた。

十月十三、四の兩日には玉川プールで、東京朝日が主催で、秩父宮殿下御成婚記念國際水上競技大會があり、野田一雄、片山兼吉、水野秀藏、山本操、竹林隆二の諸君が出場した。

また此年田畑政治君は飯田光太郎氏に代つて日本水上競技聯盟の専務理事となつた。

かくの如く協會關係者が水上競技會に次第に重きをなして行く一方、甚だ寒心に堪えない事は一時日本水上競技界の花形であつた野寄金次郎君が、近來何故か意氣頗る揚らず身心共に疲勞して行く様が他から視はれた事であつた。

昭和四年には同君は不治の病に胃されて居る事がわかり、永久に水上競技のみならず、此の世までも辭するに至つた。

此年に於いては見中の牧野君がやうやく其存在を明かにし初めたが、濱一中、中農の二校は依然として當地方に於ける重鎮であつた。濱一中を指導するものは鈴木清藏、伊東平市の諸君であり、中農をして今日あらしめるのは川合嘉助君である。見中は竹島秋三郎、磯部勝治の諸君をコーチとして小林水泳部長の熱誠により漸次躍進せんとして居る。其他濱松師範も島君を得てから近時大いに意氣込んで、他日の大成を期して居る。

第九回全國水上競技大會は八月十四、五兩日に行はれたが、前記の如く學校單位の水泳團が發達して來た結果として、申込團體は武徳會、豊橋及び石神井を除くの外は、濱一中、濱商、中農、見中、靜中、靜商といふやうな學校單位のものばかりであつたのを見て、近來の趨向を知ることが出来るやうである。

決勝記録は左の通りである。

百米自由形

1. 片山 兼吉 (濱一中) 一分三秒六
2. 材上 弘(武徳會)
3. 袴田唯比古(濱一中)
4. 鈴木 秀雄(見中)

百米背泳

1. 片山 兼吉 (濱一中) 一分一七秒
2. 松下 喜 (濱一中)
3. 清川 正二(豊橋)
4. 大島 正夫(石神井)

二百米リレー

1. 武徳會チーム(横田、村上、松本、益田)一分五五秒四
2. 濱一中 3. 見中 4. 豊橋

千五百米自由形(*は新記録)

1. 牧野正藏(見中)*二分〇分四四秒二
2. 武村寅雄(石神井) 3. 山本操(濱一中)
4. 西條友長(武徳會)

二百米自由形

1. 袴田唯比古(濱一中)二分二五秒二
2. 松本治一(武徳會) 3. 丹下良一(石神井)
4. 宮崎康二(濱一中)

二百米平泳

1. 岡島武男(武徳會)三分二秒
2. 尾藤正太郎(武徳會) 3. 大石松夫(見中)
4. 倉田正次(中農)

四百米自由形

1. 牧野正藏(見中)五分一一秒二
2. 武村寅雄(石神井) 3. 袴田唯比古(濱一中)
4. 松本治一(武徳會)

八百米リレー

1. 濱一中チーム(袴田、宮崎、山本、片山)*一分一六秒
2. 見中 3. 武徳會 4. 石神井

水球

武徳會⁵-2濱一中

得點は

濱一中 三三 武徳會 二三 見中 一八
石神井 一〇 豊橋 三 中農 一

此會では濱一中が再び壓倒的の勝利を得たが、このほか濱一中はインター・ミッドル其他に於いて根強い底力を示し、山本、片山、袴田、藤野、宮崎、太田其他の多士濟々といふ有様を呈した。これに對して中農も水野、宮崎、鳥居、大竹、今敷、兼子等を有し、見中もピカー牧野が益々其光を放つて來た。昭和五年には袴田が病氣のため水上競技界を離れたことは濱一中のために惜しいばかりでなく、彼の奮闘力泳振に多大の期待を持つ人々にとつては一大痛事であつた。

まづ第一に特記すべきことは五月極東大會に於いて片山君が完全に入江君に勝ち得た事である。

つぎに五月末 聖上陛下行幸の際靜中プールに於いて靜中、見中、中農、濱一中四校選手の競泳を天覽に供し、筆者が御側近に於いて同競技に關する御説明を申上ぐる光榮を得たことである。

つぎに濱一中がインター・ミッドルで三度優勝し

常勝濱一中の名を得たことである。

つぎに日本選手權大會で濱名灣游泳協會チームが八〇〇米リレーで活躍した事、また牧野君が千五百米でわが日本に於いてはじめてアルネ・ボルグ以外には出したことのない、十九分臺の記録を作つたことである。

かくして日本に於ける水上競技界の中心勢力は全然中等學校方面に在り、然も其主要なるものはわが協會關係者であることを思ふとわれらは頗る心強く感ずると共に其責任の更に大なるを思ふのである。

なを役員改選の結果

會長 鈴木忠藏 専務理事 牧野敏一

主事 鈴木清藏

となり、筆者は名譽會長として、後見の役割を受け持つことになつた。

昭和六年はまだシーズンが悉く終了して居ないし日々新聞紙、ラヂオ等によつて、現在の事柄として皆人の知るところであるから思ひ出話の中に入れるのは不適當であると思はれるので、この長々しい思ひ出はこれで擱筆することにする。而し最後に一言して置きたいのは上記の如き花やかなる過去と、更に大なる期待が掛けられて居る將來を有するわが協會にあつて人知れぬ努力を拂つて來た人々の勞を感謝したい。

長谷川顧問、田畑理事をはじめとして、鈴木會長、牧野専務理事、中村理事等の努力は忘れられないものである。特に牧野、中村兩君は事實上に於いて協會を背負つて立つて居る人達である。この人々が居なければ協會の今後の仕事は到底やつて行けないであらう。過去の努力に對する感謝と共に將來の健闘を祈る次第である。

まだ書きたいこともあるがそれは他日にゆづり、この思ひ出の不備を補ふために別項年表を附加して一まづ此稿を了りたいと思ふ。

五、年 表

明治三三	濱中關係者有志水泳練習(新所)
三四	同上
	遠州學友會水泳部創立(辨天島)
三五	濱中水泳部創立(辨天島)
	學友會對濱中對抗競泳
三七	濱商水泳部創立(辨天島)
三九	掛中水泳部創立(辨天島)
四〇	濱中水泳部獨立
	三校聯合開場式に李家知事參列
四二	高千穂學校水泳部來島
	濱名灣聯合水上大會創始(選手競洋を含む)

- む)
- 大正四 協會創立準備
龍澤幾太郎氏視察
- 五 濱名灣游泳協會創立
第一回講習會並に資格試験
選手競泳廢止
- 六 内田、鈴木第三回極東大會(東京)出場
- 七 帝大水上大會(戸田)に選手派遣
- 八 同上
内田第四回極東大會(マニラ)出場
會長 河井灣八 幹事 長谷川鐵雄
- 九 帝大水上大會に選手派遣
内田第七回萬國オリンピック大會(アントワープ)出場
會長 奥山萬次郎 幹事 長谷川鐵雄
- 一〇 小野田第五回極東大會(上海)出場
辨天島プール創設(百米)
第一回全國競泳大會
- 一一 第二回全國競泳大會
全國選手權大會(調布)に選手を派遣す
會長 長谷川鐵雄 副會長 堀江耕造
幹事 鈴木 忠藏
- 一二 小野田、磯部第六回極東大會(大阪)出場
第三回全國競泳大會
全國選手權大會(芝)に選手を派遣し、八〇米リレーに優勝す
- 一三 小野田、野田第八回萬國オリンピック大會(巴里)出場
濱高工水泳部創立
第四回全國競泳大會
會長 堀江耕造 副會長 鈴木忠藏
主任幹事 牧野敏一
第一回神宮競技東海豫選
- 一四 小野田、野田、磯部、野寄第七回極東大會(マニラ)出場
第五回全國競泳大會
第二回神宮競技東海豫選
濱高工プール創設
- 一五 濱名灣流教目改訂
第六回全國競泳大會
東海水上競技聯盟成立
全日本選手權大會東海豫選
野田全米選手權大會(布哇)出場
濱商インター・ミッドル優勝
- 昭和二 辨天島プール短縮(五〇米)
野田、布哇遠征

- 山本、片山、望月、竹林第八回極東大會(上海)出場第七回全國競泳大會
- 片山、山本、水野、宮崎、鈴木、岡田日英米對抗競技會出場(東京、大阪、名古屋)
- 濱高工主催第一回東海中學校水上競技大會中央インター・ミッドル東部豫選に優勝、東西對抗に引分
- 三 野田、竹林第九回萬國オリンピック大會(アムステルダム)出場
第八回全國競泳大會
片山、山本、野田、水野、竹林、秩父宮殿下御成婚記念國際水上競技大會(玉川)出場
田畑理事日本水上聯盟専務理事に當選
濱高工主催第二回東海中學校水上競技大會(中農優勝)
濱高工東海インター・カレッジに優勝
濱一中インター・ミッドル東部豫選並に東西對抗に優勝
- 四 野寄金次郎病歿
第九回全國競泳大會
濱高工第三回東海中學校水上競技大會(濱一中優勝)
- 五 片山、鈴木政、牧野、第九回極東大會(東京)出場
遠州學友會水泳部退會
靜中プールにて濱一中、中農、見中、靜中水泳部員の競泳天覽
濱高工第四回東海中等學校水上競技大會(中農優勝)
濱一中インター・ミッドルに優勝
牧野全日本選手權大會に於いて千五百米の日本新記録(一九分三秒二)を作り、ボルグのオリンピック記録(一九分五秒八)を破る
小野田同大會に於ける日本選手のヘッド・コーチとなる。
- 六 濱高工第五回東海中等學校水上競技大會(見中優勝)
片山、宮崎、牧野、日米對抗水上競技大會(東京)出場
野田同大會に於ける日本軍の補助監督、インター・ミッドル東部代表のコーチとなる。見中インター・ミッドルの東部豫選に優勝、同じく東西對抗優勝

昭和
七年度

日本選手権水上競技大會

本年度の水上競技總決算たる日本選手権大會は九月三十日から十月二日迄の三日間、神宮プールで舉行された。男子競泳に於ては一般に棄権者多く、殊にオリンピックに参加した諸君が疲労のためか大部分出場せず、僅かに自由形の武村清、石原田、北村背泳の清川、平泳の小池の諸選手の出場を見たのみで一沫の淋しさを感じた。たゞ千五百米に於ける北村の力泳とこの千米の 19:13.6 の日本新記録、清川の 100 米 1:16.0、200 米の 2:36.6 の新記録、小池の 100 米 1:16.0 及 200 米の 2:49.6 の好記録が目につくのみで他には太した記録を示さなかつた。

女子競泳に於ては梶山女專の小島一枝が 100 米自由形に於て前年度の選手権保持者松澤初穂を抜いて一着を占め、又 200 米自由形に於て守岡初子を破つて 2:49.4 の日本新記録を作つたのは偉とするに足る。

尙小島は第二日の 100 米豫選に於て 1:14.8 の日本新記録を出した。平泳の前畑秀子は益々強く殆んど獨泳の形で他を引きはなし 3:09.5 の新記録を出した。

競泳の不振に引換へて飛込競技に於ては、今回のオリンピック大會の高飛込優勝、飛板飛込では Reiley について二等の Smith 及び本年のオリンピックには出場しなかつたが、高飛込では斷然群を抜く Simaika の二名が Summaril 監督の下にこの大會に参加して鮮かなフォームを示したのみならず、大會前の練習に於て日本選手に多大の啓發を與へた。

尙又本年初めて日本水上競技聯盟に於て制定した標準泳法を東京市の小學兒童が行つたが、約 250 名の男女の兒童の極めて自由な泳ぎは、從來の殻を破つて今後の進歩が保證された。

競泳決勝記録

男子

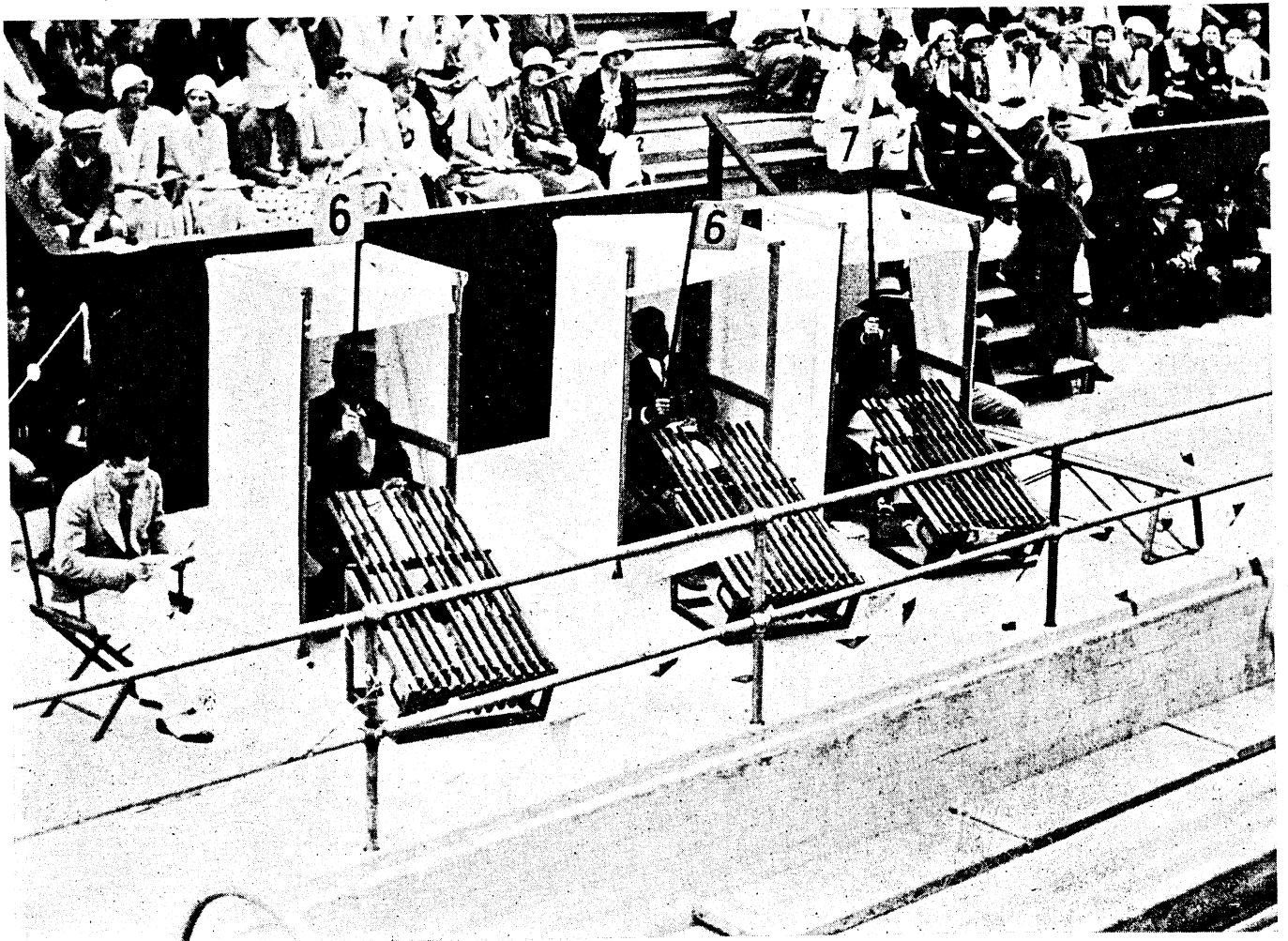
100自	1.	新井 茂雄(靜 浦)	1:01.6	
	2.	志村 義久(稻泳會)	1:02.2	
	3.	梅田利兵衛(高 師)	1:03.2	
200自	1.	新聞 六炳(靜 中)	2:18.2	
	2.	新井 茂雄(靜 浦)	2:20.6	
	3.	富樫 誠助(鶴岡工)	2:24.8	
400自	1.	新聞 六炳(靜 中)	4:59.8	
		300 米正式時間	3:43.8	
	2.	石原田 愿(明 大)	5:02.0	
	3.	米 山 弘(稻泳會)	5:03.8	
1500自	1.	北村久壽雄(高知商)	19:56.0	
		1000 米正式時間	13:13.6	日 新
	2.	横山 清一(高知商)	21:21.0	
	3.	知念 繁雄(佐世保)	21:47.8	
100背	1.	清川 正二(名古屋)	1:10.8	日 新
	2.	大野 大藏(商 船)	1:18.0	日 新
	3.	竹内 八郎(法 大)	1:29.4	
200背	1.	清川 正二(名古屋)	2:36.6	日 新
	2.	武 村 清(明 大)	2:46.2	
	3.	上野 大藏(商 船)	2:47.6	
100平	1.	小池 禮三(沼 商)	1:16.0	

	2.	奥 藤 修(明 大)	2:58.0	
	3.	高 島 秋介(甲 陽)	1:21.8	
200平	1.	小池 禮三(沼 商)	2:49.6	
	2.	高 島 秋介(甲 陽)	2:58.0	
	3.	北村 肇造(濱一中)	3:06.6	
800 リレー	1.	稻 泳 會(志村、田中、 宮本、米山)	9:40.0	
	2.	宮城 水協(河原田、青柳、 岡部、佐藤)	10:36.0	
	3.	隅 田 ク(新谷、大野、 山川、卯月)	10:43.4	
女 子				
100自	1.	小島 一枝(梶 山)	1:15.4	
	2.	渡部こまつ(淑 徳)	1:18.6	
	3.	松澤 初穂(女子體)	1:18.8	
200自	1.	小島 一枝(梶 山)	2:49.4	日 新
	2.	守岡 初子(茨 木)	2:55.0	
	3.	渡部こまつ(淑 徳)	3:02.6	
400自	1.	守岡 初子(茨 木)	6:10.0	
		300 米正式時間	4:33.6	
	2.	古閑 久子(熊本中央)	6:45.4	
	3.	鈴木 里子(京 武)	6:51.8	
100背	1.	横田みさを(京 武)	1:29.4	
	2.	高野 菊枝(淑 徳)	1:32.4	



日本飛込チーム
右から島崎、鎌倉、石田、生江、小林

島崎保正君の審判振り





神宮プールにて

右より

サマリル監督

ハロルド、スミス

松澤一鶴

フアリッド、シマイカ

- 200平 1. 前畑 秀子(嵯山女専) 3:09.6 日新
 2. 久原きく子 京 武) 3:29.2
 3. 成瀬キヌエ(田 丸) 3:43.8

- 400
 リレー 1. 京 武(横田、谷口、
 宮城、鈴木) 5:29.6
 2. 愛知 淑徳(小木曾、渡部、
 横江、戸張) 5:33.6

飛 込 競 技

男子飛板飛込

(9月3日)日小雨、西微風、気温18°C 水温20°C)

- | | | | |
|-----|------------|----------|--------|
| 1. | ハロルド、スミス | L.A.A.C | 155.52 |
| 2. | フアリッド、シマイカ | L.A.A.C | 152.84 |
| 3. | 小林 一 男 | 茨木水泳団 | 130.78 |
| 4. | 原 酉 三 | 慶 大 | 125.72 |
| 5. | 原 秀 夫 | 慶 大 | 122.24 |
| 6. | 中 田 周 三 | 金澤水泳団 | 121. 2 |
| 7. | 西 尾 太 一 | 茨木中學 | 119.72 |
| 8. | 柴 原 恒 雄 | 金澤三中 | 118.74 |
| 9. | 杉 原 雪 夫 | 慶 大 | 111.34 |
| 10. | 井 上 久 治 | 大阪ナタシオン俱 | 95.02 |
| 11. | 西 田 駒 吉 | 大阪ナオタシン俱 | 78.68 |
| 12. | 北 村 久 雄 | 松住農校 | 73.76 |

女子飛板飛込

(10月1日)晴、南微風、気温19°C 水温20°C)

- | | | | |
|----|-----------|--------|-------|
| 1. | 大 澤 政 代 | F.D.C. | 60.72 |
| 2. | 永 井 惠 美 子 | 無所屬 | 60.34 |
| 3. | 香 野 扶 佐 子 | 西宮高女 | 69.48 |
| 4. | 大 瀬 千 枝 子 | F.D.C. | 48.22 |
| 5. | 西 村 春 海 | 松住體協 | 39.77 |

男子高飛込

(10月1日)晴、南微風、気温19°C 水温20°C)

- | | | | |
|-----|------------|----------|--------|
| 1. | フアリッド、シマイカ | L.A.A.C | 198.10 |
| 2. | ハロルド、スミス | L.A.A.C | 124.16 |
| 3. | 水 谷 泰 夫 | 鎮西學院 | 91.54 |
| 4. | 原 秀 夫 | 慶 大 | 83.10 |
| 5. | 岩 切 盛 行 | 明 大 | 82.04 |
| 6. | 中 田 周 三 | 金澤水泳団 | 78.52 |
| 7. | 末 次 保 | F.D.C. | 73.22 |
| 8. | 永 松 武 | F.D.C. | 64.36 |
| 9. | 井 上 久 治 | 大阪ナタシオン俱 | 63.54 |
| 10. | 三 谷 晃 | 東洋大 | 61.12 |

女子高飛込

(9月30日)雨、西風、気温18°C 水温20°C)

- | | | | |
|----|-------------|-------|-------|
| 1. | 永 井 惠 美 子 | 無所屬 | 30.32 |
| 2. | 大 澤 禮 子 | 九段精華 | 30.10 |
| 3. | 林 悦 子 | 九段精華 | 28.30 |
| 4. | 香 野 扶 佐 子 | 西宮高女 | 27.34 |
| 5. | 日 下 部 喜 代 子 | 大平前高女 | 20.54 |
| 6. | 佐 々 木 千 鶴 子 | 大平前高女 | 20.12 |

水球リーグ戦

林 正 之 澤 海 東 助

オリンピック選手を加へて

オリンピック熱に煽られた儘、秋の日本選手権大会も終了した後、逝く秋と共に扉を閉ぢやうとする明治神宮プールに追はれる様に、インターカレッジ水球の秋期リーグ戦が十月三日から行はれました。全世界の水球テクニクを吸ひ盡して歸つて来た我がオリンピック水球チームをその儘のチームとして闘はして見たいのはやまやまでありましたが、母校の旗の下には總てが敵として別れなければならぬ関係をもつインターカレッジでは其もなり兼ねて、オリンピックチームを解散し、夫々元の學校にもどさざるを得なかつたのは、何とも物足りぬ事でありました。而して其でも水球知識に飢えて居る我々には彼等のプレイを見ると云ふだけでも如何ばかりの喜であつたでせう。

新しいテクニク

例へば今迄見なかつたことはなかつたんですが、從來各チームは、パスされて水の上に落ちた球を、如何に速く掴んで投げるかと云ふことに腐心したのですが、もつと速い投球、即パスされた球を水の上に落さずに空中で受け止めてそのままシュートなりパスなりをすることが、どうやらうまくこなせるやうになつた事です。その他色々ありますが、「水球に於ける理論と實際は何れ又稿を改めることもあらう」と日本水球チーム監督の藤田明氏が前號で明言されておりますので、吉本、安部、杉田諸氏と共に藤田氏の投稿を楽しみ得る次第です。

秋期大會のスケール

今秋の参加校は記録上は早、慶、立、帝、商、明、法の七校でしたが、リーグ戦はやらなくてもよい一日でも一回でも練習試合の形式で水球をやつてくれるやうに、各カレッジ加盟校にお願ひした結果練習なりゲームなりに來られた學校は拓大、高師、一高等で正規のメンバーに出ない第二軍の連中と試合しました。これからもこの方針でやつて行く積りです。

早 慶 戦

結果は豫想通りに早慶の大接戦となり、4人のオリンピック選手とスピードの人を集めた早稲田に對し2人のオリンピック選手を中心に一夏を葉山に合宿してみつちり技をみがいた連中を集めた慶應、共によく働き、よく投げ、よくタックルして物凄く闘ひましたが慶應のファワードの調子出す早稲田の1ファワード好く敵のバックを破り、加ふるにゴールキーパーのミスも手傳つて、4對0で慶應が敗れて、全勝の記録を残して早稲田の優勝する所となりました。

早慶セブンの印象

優勝の早稲田は、實によく揃つたチームで長年競泳で鍛へたスピードのある人達の集りで、疲れを知らない底力のある連中ばかりだし、外國のプレイ振りもよく受け入れたらうから、競泳の練習もありませうが、向ふに行つた選手について、一般のハンドリングの習得をお願い致しませう。

早稲田と常に互角の勝負をして行く慶應はハンドリングもうまく好いパスもやつて行きますが、底力を出すべき速さの押しが足りないのかと思われませう、早慶戦を見る度に感じます。

帝 立 明 商 法

オリンピック選手は居ませんでした、とにかく春のリーグ戦は異常の強さを見せて優勝した帝大チームは此の秋立教に破れました。うまくプレイをしようしやうとして人に頼つて居るやうですが、もつと各人がむきになつたら、すごいチームとなるでせう。慶應のハンドリングを泳ぎの力に置きかへたやうなのが立教チームでせう、ロングパスが足りないやうです。今一息と云ふ所、明治も惜しい所でゲームを失ふチームですが泳ぎに頼つて球をドリブル等で持ち過ぎて早く疲れを見せるのではないでせうか。商大と法政とはリーグ戦始つて以來の延長戦又延長戦で一時間以上を水の中で闘ひました、どちらもよくまとまつたチームですが、一つの球に4人集つて了ふと云ふやうな動き過ぎで、疲れて了ふのではないかと思われませう。

この七校が春と秋二シーズンやつて來ましたが段

々各校の間の力の差が無くなつて來ました。早稻田慶應がオリンピックに選手を送つて強くなれば、歸つて來てリーグ戦をやつてる内にどんどん他の普及が追いついて行くのが目に見えて來ます。來春からは完全な二部制も作られるし、コーチにもどんどん出かける豫定ですから各インターカレッジ加盟校が、いよいよ多數參加されんことを願ひ、引ひて全國的に水球を普及させて行かれんことを願ひします。

ゲーム、チーム、プレイ振りの批評はその道の諸先輩に願ひすることにして結果を次に掲げてお許しを願ひます。

拾月三日(月)

帝大 7 $\begin{matrix} 4-1 \\ 3-1 \end{matrix}$ 2法大

慶大 7 $\begin{matrix} 3-2 \\ 4-0 \end{matrix}$ 2立大

早大 14 $\begin{matrix} 7-0 \\ 7-0 \end{matrix}$ 0商大

同 四日(火)

慶大 17 $\begin{matrix} 8-0 \\ 9-0 \end{matrix}$ 0法大

早大 11 $\begin{matrix} 3-0 \\ 8-0 \end{matrix}$ 0明大

立大 3 $\begin{matrix} 1-0 \\ 2-0 \end{matrix}$ 1帝大

同 五日(水)

早大 20 $\begin{matrix} 12-0 \\ 8-0 \end{matrix}$ 0法大

帝大 5 $\begin{matrix} 4-1 \\ 1-0 \end{matrix}$ 1商大

慶大 13 $\begin{matrix} 6-0 \\ 7-0 \end{matrix}$ 0明大

同 六日(木)

帝大 10 $\begin{matrix} 5-2 \\ 5-0 \end{matrix}$ 2明大

慶大 10 $\begin{matrix} 5-0 \\ 5-0 \end{matrix}$ 0商大

早大 2 $\begin{matrix} 5-0 \\ 7-1 \end{matrix}$ 1立大

同 七日(金)

明大 2 $\begin{matrix} 0-1 \\ 2-0 \end{matrix}$ 1法大

立大 6 $\begin{matrix} 3-0 \\ 3-0 \end{matrix}$ 0商大

早大 4 $\begin{matrix} 1-0 \\ 3-0 \end{matrix}$ 0慶大

同 八日(土)

商大 3 $\begin{matrix} 1-1 \\ 2-2 \end{matrix}$ 3法大

延長戦 1 $\begin{matrix} 0-1 \\ 1-0 \end{matrix}$ 1

延長戦 1 $\begin{matrix} 1-0 \\ 0-0 \end{matrix}$ 0

5 計 4

早大 6 $\begin{matrix} 1-0 \\ 5-0 \end{matrix}$ 0帝大

立大 2 $\begin{matrix} 2-0 \\ 0-1 \end{matrix}$ 1明大

同 九日(日)

立大 8 $\begin{matrix} 4-0 \\ 4-0 \end{matrix}$ 0法大

商大 6 $\begin{matrix} 2-0 \\ 4-1 \end{matrix}$ 1明大

慶大 8 $\begin{matrix} 3-1 \\ 5-0 \end{matrix}$ 1帝大

結 果
1 早 大
2 慶 大
3 立 大
4 帝 大
5 商 大
6 明 大
7 法 大
以 上

正 誤 表

第14號、オリンピック水上競技戦績に次の誤りありたるにつき訂正す。

頁	種目	組	誤	正
5	0.自豫	2	4ワンニー	ワンニー (以下ワンニー)
7	100自準決		八月六日午後3.50	3.30
7	400自豫			
	〃	2	ラーレス(2)	カラーレス(6)
	〃	4	バーセラス	バーセルス
8	1500自準	1	クリスチャー(3)	クリスチャー(2)
8	1500自準決	2	牧野正藏19:37.8	19:38.7
9	10.背豫		八月十二日	八月十日
	100背豫	3	3.パウロ	3.パウラ
	100背準決		(3)河津憲太郎(3)	河津憲太郎(1)
	200平	2	3カラパロ 2:55.0	2:55.2
		3	5レイエス(5)	レイエス(3)
11	800リレー		5 { サットン 英羽 ウイリアムス	5 { ウイリアムス サットン
11	女100自豫	3	4ヒューズ	ヒューズ
12	100自準決	2	(2)ブルト(4)	ブルト(3)
	100自決		4マツキム 1: 9.-	1:09.8
	400自豫		八月十一日午前1.-00	10.00
	100背豫	1	(1)クーパー.: -6.7	5:56.7
			八月九日午前0.-0	10.30
13	100背決	2	(2)マイシーヒー	(2)マクシーヒー
	200平豫		(2)ミーリング 1:2.-.3	(2)1:21.3
	女200平豫	1	(1)デニス(2)	1 デニス(1)
	女200平決	1	3ブライアー	ブライアー
15	男子飛板		45.番 オ記録を除く	
			1 ガリツツエン	
			選擇 1. 18.92	18.90
			3. 10.78	19.78
			8 江哲太郎	
			規定 1. 10.80	10.88
			9 シュタウデンガー	
			選擇 2 12.54	12.60
15	男子高飛込		1 スミス	
			選擇 3 18.08	18.04
			8 石田英勝	
			選擇 1. 15.34	13.64
16	女子高飛込		1 ホイントン	
			得点 60.26	40.23
	水球		獨 $\begin{matrix} 0-1 \\ 3-2 \end{matrix}$ 3 伯	獨 $\begin{matrix} 4-1 \\ 3-2 \end{matrix}$ 3
			洪 $\begin{matrix} 10-8 \\ 8-0 \end{matrix}$ 0 日	洪 $\begin{matrix} 10-0 \\ 7-0 \end{matrix}$ 0 日

君よ知るや、南の島

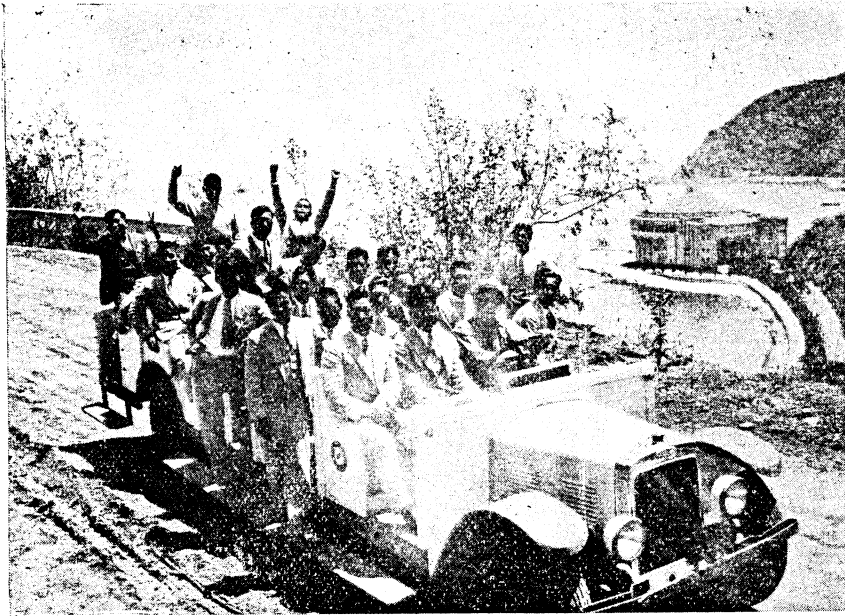
松澤一鶴

オリンピックプールに於ける第二期の練習が済む頃、選手達にとっては一番厭なタイム取りも終り、競技の申込みをしてホッとした七月廿五日と廿六日を競泳選手は朗かにカタリナ島に遊びに行きました。身體と氣持を休めオリンピックの最後の準備をする爲に。

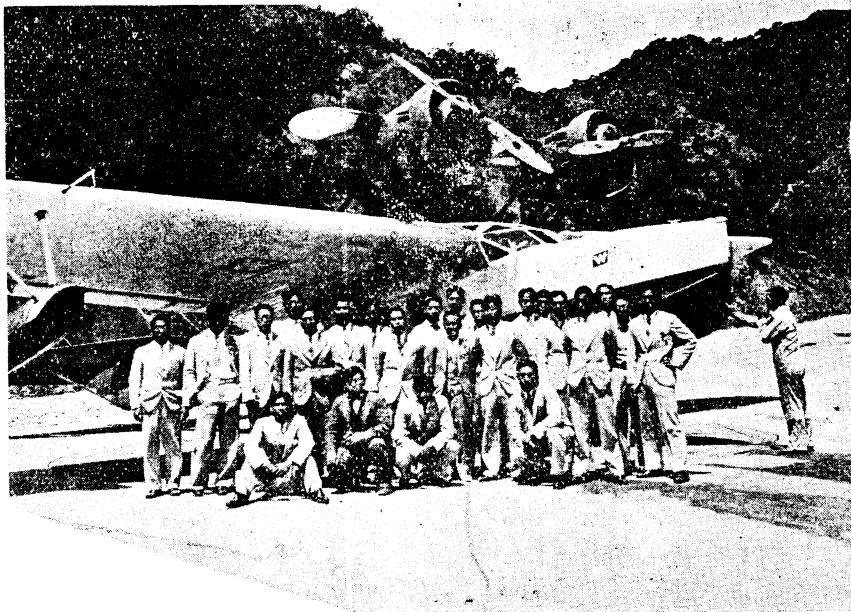
此はその紀行です。此の旅行は恐らく選手諸君の最も喜んだものの一つでしたらう。皆さん御承知のチウイングムのリグレーが此の島全部を所有して

居つて、羅府市民の清遊地として、種々な娛樂機關を備へ、羅府港ウィルミントンから船で二時間半、飛行機で二十分と云ふ所、美しい南國の島。

本當に嬉しく泳ぎました。海の水は少々冷い位です得意になつてクロールなど泳いで *



* る鼻の先へ、あらうことかあるまい事かハウアーユーとも云はずにあざらしが現れたので皆蒼くなつて此の筏の上へあがつて、テレかくしにオケサダンスをやつちまつた所なのです。どうも僕は選手諸君が此の時速く泳ぐ事を覺えたらしく思つとるです。諸君よ、泳ぎ

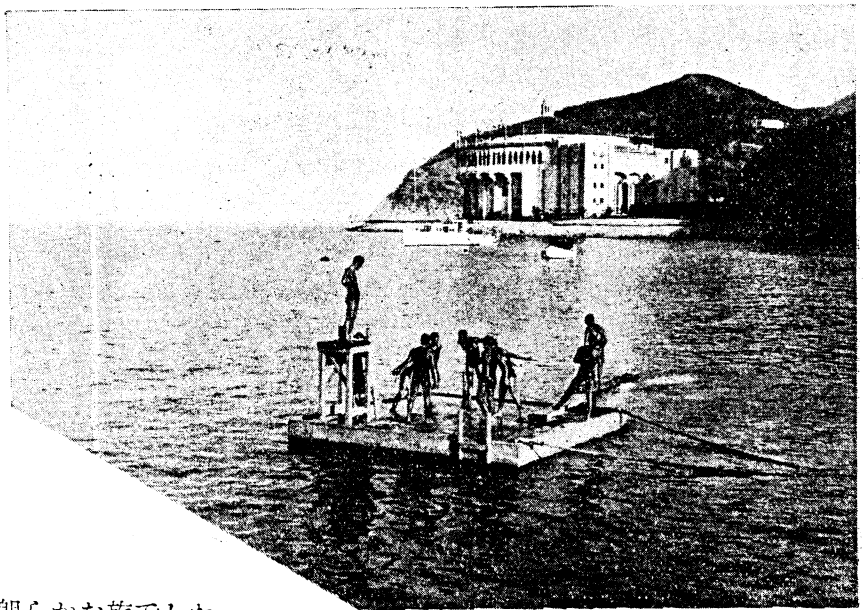


が速くならうと思つたら、あざらしに追ひかけて貰ふ事デスナ。ナニ、コーチなんかいらねえよ。これは怪しからん。

いくら雨の降らぬ所とは云ひながら見物用のバスに屋根の無いのもさつぱりして居ると申すか、氣が利いて居ると申すか。遠くに見える所の妙な建物はカジノと云ふトーキー映畫館で上は素晴らしく大きなダンス・ホール。二千組一度に踊れて、そしてたどなのです。

遊覽飛行機で十分間ばかり地球と絶縁した切りで立派な飛行通になり、飛行マニヤになつて、泳ぐよりいゝなアなどとおつしやつた方もあつたです。

羅府滞在中ほんのたゞ一回切りの呑氣な朗らかな旅でした。



水上競技會

情報

NSR

編輯部

第十一回 大阪水上競技選手権大會 兼 日本選手権大會大阪豫選

主催 大阪體育協會

男子

100自

- 1. 木下 善一(大阪ナタシオン) 1:04.8
- 2. 安田榮二郎(關西水協)
- 3. 北室 武雄(同志社)

200自

- 1. 笹原 虎雄(同志社) 2:27.8
- 2. 北室 武雄(同志社)
- 3. 木下 善一(大阪ナタシオン)

400自

- 1. 笹原 虎男(同志社) 5:49.2
- 2. 藤川 良夫()

50背

- 1. 小西 小一(大阪ナタシオン) 36.2

- 2. 清浦 保敏(同志社)

100背

- 1. 田村 博(關西水泳) 1:24.6
- 2. 清浦 保敏(同志社)

200背

- 1. 田村 博(關西水泳) 2:59.2

100平

- 1. 高島 秋介(甲陽中) 1:24.2
- 2. 河上 繼男(同志社)
- 3. 金澤 茂一(同志社)

200平

- 1. 高島 秋介(甲陽中) 2:58.8
- 2. 河上 繼男(同志社)
- 3. 金澤 茂一(同志社)

200リレー

- 1. 同志社(笹尾、横田、井上、北室) 1:59.4
- 2. 關西永協(國井、市橋、田村、安田)

300メドレー

- 1. 同志社(笹尾、河上、北室) 3:54.6
- 2. 大阪ナタシオン(小西、牧野、木下)

800リレー

- 1. 同志社(井上、横田、北室、笹尾) 10:30.6
- 2. 大阪ナタシオン(小西、竹内、木下、鹽澤)

女子

50自

- 1. 濱野千鶴子(夕陽丘女) 37.8
- 2. 岡 民子(夕陽丘女)
- 3. 湯本壽美子(夕陽丘女)

100自

- 1. 梶原 辰子(西宮女) 1:33.4
- 2. 湯本壽美子(夕陽丘女)
- 3. 玉水 良江(西宮女)

200自

- 1. 山尾 末子(大谷女) 3:25.4
- 2. 梶原 辰子(西宮女)
- 3. 小林 鞠子(夕陽丘女)

400自

- 1. 山尾 末子(大谷女) 7:28.4
- 2. 青山美貴子(金蘭女)

3. 切石 彌生(夕陽丘女)

50背

- 1. 濱野千鶴子(夕陽丘女) 48.4

100背

- 1. 小林 鞠子(夕陽丘女) 1:54.2
- 2. 川野 初子(西宮女)

100平

- 1. 瀧石しげ子(夕陽丘女) 1:43.8

200平

- 2. 瀧石しげ子(夕陽丘女) 3: 9.4

400リレー

- 1. 夕陽丘高女(岡、橋、湯本、濱野) 6:00.0
- 2. 西宮高女(玉水、加藤、川野、梶原)

女子

飛板飛込

- 1. 香野夫佐子(西宮女) 59.62

高飛込

- 1. 香野夫佐子(西宮女) 31.12
- 2. 日下部喜代子(大手前女) 21.84
- 3. 佐々木千鶴子(大手前女) 13.44

男子

飛板飛込

- 1. 西尾 太一(茨木中學) 119.22
- 2. 井上久治(ナタシオン) 96.36
- 3. 西田駒吉(ナタシオン) 69.34

高飛込

- 1. 井上久治(ナタシオン) 54.78

第六回 北大豫科對小樽高商水上競技會

期日 昭和七年六月十九日正午

場所 小樽市立中學校プール(25)

<p>50自 1. 村上 恒夫(北) 30.0 2. 一谷 秀男(小) 30.6 3. 奈良 勳(北)</p> <p>100自 1. 村上 恒夫(北) 1:08.8 2. 一谷 秀男(小) 1:09.2 3. 築城 武義(北) 1:16.0</p> <p>200自 1. 佐久間大三(北) 2:44.0 2. 山形 達尾(小) 2:54.6 3. 中澤 嘉男(小) 3:00.2</p>	<p>400自 1. 佐久間大三(北) 6:03.0 2. 山形 達尾(小) 6:39.2 3. 中澤 嘉男(小) 6:44.0</p> <p>800自 1. 名雲 賢(小) 14:20.0 2. 谷黒 正二(小) 14:26.8 3. 富岡 治郎(北) 14:30.0</p> <p>100背 1. 名雲 賢(小) 1:24.0 2. 笠松 繁雄(北) 1:29.2 3. 阿部 貞夫(小) 1:31.4</p>	<p>200平 1. 谷黒 正二(小) 3:16.2 2. 尾關 光治(小) 3:20.4 3. 北村 武重(北) 3:31.2</p> <p>400リレー 1. 北大(村上、奈良、築城、佐久間) 4:50.2 2. 小樽(一谷、山形、中澤、名雲) 5:02.5</p> <p>得點 北大豫科76 小樽高商74</p>
---	---	---

北海道中等學校水泳大會

主催 北海道中等學校競技聯盟

場所 小樽市立中學校プール (25)

後援 小樽體育協會

期日 7年7月30、31日

<p>100自 1. 木 村(函商) 1:07.0 2. 藤 井(函商) 1:08.6 3. 濱 地(函師) 1:11.2</p> <p>200自 1. 木 村(函商) 2:33.6 2. 濱 地(函師) 2:43.0 3. 長 島(函中) 2:45.2</p> <p>400自 1. 古 谷(函中) 5:50.4 2. 奈 良(函商) 5:56.8 3. 長 島(函中) 5:57.4</p> <p>800自 1. 古 谷(函中) 12:17.1 2. 奈 良(函商) 12:29.1 3. 赤 塚(函師) 12:30.0</p>	<p>100背 1. 赤 塚(函師) 1:20.6 2. 橋 本(函中) 1:28.6 3. 伊 藤(北中) 1:31.3</p> <p>200平 1. 筒 井(函中) 3:05.1 2. 河 井(函商) 3:10.6 3. 梶 浦(二中) 3:12.2</p> <p>200リレー 1. 函 商(藤井、佐山、奈良、木村) 2:04.5 2. 函 師(濱谷、赤塚、濱地、上田) 2:09.4 3. 樽 商(西村、神保、本間、鈴木) 2:10.4</p>	<p>4. 北中 5. 札商 6. 北商</p> <p>800リレー 1. 函 商(藤井、佐野、奈良、木村) 11:02.6 2. 函 師(赤塚、濱谷、上田、濱地) 11:27.6 3. 樽 商(杉山、鈴木、角谷、本間) 12:14.0</p> <p>得點: 函 商66 函 師45 函 中34 樽 商16 北 中12 札 商10 札二中 4 北 商 3 札一中 2 樽 中 1</p>
--	--	---

第八回 靜浦游泳協會水上競技大會

主催 靜浦游泳協會

場所 江の浦プール (50)

後援 東京日日新聞社

期日 昭和7年7月30、31日

<p>一般の部</p> <p>100自 1. 新井 茂夫(古 水) 1:04.2 2. 石川 勇(靜 青) 1:05.4 3. 中島 清策(靜 青) 1:11.0</p> <p>200自 1. 長見 達明(隅田ク) 1:25.4 2. 新井 茂夫(古 水) 2:25.8 3. 高木 茂夫(稻泳會) 2:25.4</p>	<p>400自 1. 永見 達明(隅田ク) 5:13.4 2. 竹内 常郎(沼商ク) 5:33.4 3. 高木 茂夫(稻泳會) 5:37.8</p> <p>800自 1. 新谷 孝雄(隅田ク) 11:38.4 2. 竹内 常郎(沼商ク) 11:41.8 3. 坂倉 晴(靜 青) 12:04.8</p> <p>100背 1. 八木橋親臣(沼商ク) 1:21.4 2. 川島 達男(沼商ク) 1:22.4</p>	<p>3. 小早川三五郎(靜 青) 1:24.6</p> <p>200平 1. 渡井 八郎(法友ク) 3:11.2 2. 眞部竹次郎(靜 青) 3:11.2 3. 磯部 由郎(沼商ク) 3:23.0</p> <p>200リレー 1. 靜浦 青年(小早川、坂倉、中島、石川) 1:18.4 2. 沼商クラブ(宮田、川島、</p>
---	---	---

- 竹澤、竹内) 2:07.6
 3. 隅田クラブ(新谷、長倉、細谷、永見) 2:08.0
 4. 古宇水泳會 5. 沼津魚河岸
 800リレー 1. 隅田クラブ 10:34.0
 2. 静浦青年團 10:36.0
 3. 沼商クラブ 11:30.6

2. 藁科 實(沼商) 3:10.0
 3. 富樫 堅(沼商) 3:15.6
 200リレー 1. 静中(新聞、澤野、近藤、森) 2:02.4
 2. 沼商(野田、小早川、村上、杉山) 2:05.0
 3. 沼中(松原、秋山、川守、須田) 2:05.6
 4. 清水商、 5. 庵原中、

3. 笹原喜代作(静小) 46.0
 100平 1. 栗原 平吉(静小) 1:31.8
 2. 井村 綱吉(静小) 1:38.6
 3. 大木 喜作(静小) 1:40.0
 200リレー 1. 西浦 小 2:14.4
 2. 静浦 小 2:17.4
 3. 内浦 小 2:19.4
 4. 静浦少年團

中學の部

- 100自 1. 森 博(静中) 1:06.4
 2. 板山 信次(沼商) 1:08.4
 3. 鶴田 辰雄(静商) 1:09.0
 200自 1. 新聞 六炳(静中) 2:24.4
 2. 森 博(静中) 2:30.8
 3. 杉山 信次(沼商) 2:34.4
 400自 1. 新聞 六炳(静中) 5:35.2
 2. 長澤 正(清水商) 5:36.0
 3. 渡邊 元一(沼商) 5:40.8
 800自 1. 長澤 正(清水商) 11:35.8
 2. 渡邊 元一(沼商) 11:35.8
 3. 梶 森 治(沼中) 11:54.2
 100背 1. 鈴木 勳(沼商) 1:22.8
 2. 小松 繁(沼商) 1:23.0
 3. 大瀧 光夫(清水商) 1:23.6
 200背 1. 中島 武(沼中) 3:04.4
 2. 小松 繁(沼商) 3:05.2
 3. 鈴木 勳(沼商) 3:07.8
 100平 1. 渡井長七郎(富中) 1:25.2
 2. 富樫 堅(沼商) 1:25.4
 3. 藁科 實(沼商) 1:25.8
 200平 1. 渡井長七郎(富中) 3:04.4

6. 豆陽中
 800リレー 1. 静岡中學(小柳、近藤、森、新聞) 10:32.4
 2. 沼津商業(小松、小早川、渡邊、杉山) 10:38.4
 3. 沼津中學(梶森、秋山、川守、須田) 10:56.0
 4. 清水商、 5. 庵原中、
 6. 富士中

女子の部

- 50自 1. 金子 和代(沼女) 44.6
 2. 小柴 サト(静小) 54.2
 3. 野尾 朝子(沼女) 54.4
 50背 1. 湯浅しん子(沼女) 57.2
 2. 浅井 朝子(沼女) 58.0
 3. 金子 和代(沼女) 1:07.0
 100平 1. 野村 愛子(静小) 1:55.2
 2. 伊海 ミサ(静小) 1:58.4
 3. 岩崎しずこ(静小) 2:17.6

少年の部

- 50自 1. 大川 潔(内小) 36.8
 2. 土屋 彰(西小) 37.0
 3. 坂倉 貞雄(静小) 37.2
 100自 1. 齋藤 泰堂(内小) 1:13.4
 2. 高野 一美(西小) 1:15.3
 3. 内田 俊(内小) 1:19.6
 400自 1. 大川 泰平(内小) 6:09.0
 2. 増田 武雄(静小) 6:25.0
 3. 中島 計介(静小) 6:34.4
 50背 1. 笠原 金治(静小) 43.0
 2. 原田 秀男(西小) 45.8

水球

- 静浦游泳法友クラブ
 山本宜人 } 藤平正雄
 高木茂夫 } 内野正雄
 有吉正太郎 } 川里三郎
 山本晴武 } 鈴木秀男
 磯野百男 } 喜多村春木
 猿橋清 } 八田邊八郎
 染谷要 } 小山一郎
 8⁽³⁻⁰⁾/₅₋₀0

岩手體育協會主催競泳大會

◇第一回市内中等學校大會

昭和7年8月7日 盛岡市下の橋プール(25)

- 100自 1. 栗谷 川(盛中) 1:09.0
 2. 久慈 林(江南商)
 3. 柵 山(盛中)
 200自 1. 栗谷 川(盛中) 2:42.2
 2. 久慈 林(江南商)
 3. 中 川(盛商)
 400自 1. 内 館(盛中) 1:28.4
 2. 藤 原(盛中)
 3. 小 原(盛商)
 200平 1. 佐々木(江商) 3:33.0
 2. 菅 原(盛中)
 3. 高 野(盛中)
 200リレー 盛中(小原、柵山、熊谷、栗谷川) 2:13.0

- 2. 江 商
- 3. 盛 商

得點 盛岡中學 55
江南商業 37

盛岡商業 25

◇第二回市民大會

昭和7年8月21日 盛岡市下の橋プール
主催 岩手日報社 後援 岩手水泳協會

一般

- 50自
- 1. 小笠原(城南青) 34.6
 - 2. 野邊地(厨川青) 34.8
 - 3. 吉田(城南青) 39.0
- 100自
- 1. 室岡(白泳會) 1:14.6
 - 2. 小笠原(城南青) 1:18.2
 - 3. 野邊地(厨川青) 1:28.5
- 100背
- 1. 内館(協會) 1:29.2
 - 2. 薄衣(城南青) 1:34.4
- 200平
- 1. 荒川(協會) 3:35.1
 - 2. 佐藤(協會) 3:30.0
 - 3. 伊藤(下の橋青) 3:57.6
- 200リレー
- 1. 白泳會(坂本、室岡、武藤、藤島) 2:06.2
 - 2. 盛岡青年 2:07.6
 - 3. 協會 2:22.6

中學

- 100自
- 1. 栗谷川(盛中) 1:09.0
 - 2. 大立目(江商) 1:14.4
 - 3. 久慈林(江商) 1:14.6
- 400自
- 1. 栗谷川(盛中) 5:49.0
 - 2. 名久井(江商) 5:59.7
 - 3. 熊谷(盛中) 6:25.9
- 100背
- 1. 内館(盛中) 1:27.2
 - 2. 柵山(盛中) 1:37.1
- 200平
- 1. 佐々木(江商) 3:35.7
- 200リレー
- 1. 盛岡中學 2:09.2
 - 1. 江南商業 2:16.7
 - 3. 岩手工業 2:29.0

高等小學(中學二年迄も含む)

- 100自 1. 森(盛商) 1:32.6

2. 小田島(盛中) 1:41.7
- 400自 1. 小田島(盛中) 8:22.0
- 500平 1. 湯本(盛中) 4:24.9
- 200リレー 1. 下の橋 2:32.4

小學

- 50自 1. 中田(仙北) 41.0
2. 長岡(城南) 44.0
3. 梅木(城南) 47.6
- 200自 1. 中田(仙北) 3:44.8
2. 淺沼(城南) 3:52.5
3. 龜ノ森(城南) 4:11.3
- 50背 1. 小林(城南) 53.9
2. 清水(城南) 58.7
3. 中田(城南) 1:07.1
- 100平 1. 菅原(仙北) 1:57.5
2. 湯本(城南) 2:00.3
3. 川村(城南) 2:03.2
- 200リレー 1. 仙北小學 2:57.0
2. 城南小學 3:04.6

◇岩手縣青年團水上競技大會

昭和7年8月28日 盛岡中學プール(25)
岩手青年聯合會主催 岩手水泳協會後援

- 100自 1. 高橋(盛岡) 1:12.6
2. 菅野(江南) 1:15.4
3. 松田(下閑野) 1:17.4
- 400自 1. 袴田(盛岡) 6:01.4
2. 花坂(下閑伊) 6:30.3
- 100背 1. 内館(盛岡) 1:31.2
2. 前田(江刺) 1:36.0
3. 芳野(上閑伊) 1:49.5
- 200平 1. 三浦(下閑伊) 3:19.4
2. 荒川(盛岡) 3:28.8
3. 三浦(和賀) 3:58.0
- 200リレー 1. 盛岡市 2:07.0
2. 下閑伊郡 2:14.1
3. 江刺郡 2:28.8

◇第一回岩手少年水上競技大會

昭和7年8月28日 下の橋プール(25)

少年一部(14-16歳)

- 50自 1. 藤森(盛中) 32.8
- 100自 1. 沼田(岩中) 1:23.8
2. 中川(岩中) 35.4
3. 沼田(岩中) 35.8
2. 鈴木(盛中) 1:25.0
3. 矢羽々(下の橋) 1:27.0
- 400自 1. 鈴木(盛中) 6:11.1

2. 加藤(下の橋)	6:59.0	50自	1. 中田(仙北)	33.0	2. 川村(城南)	1:57.8
3. 宮田(仁王)	7:12.0		2. 千葉(岩谷堂)	40.2	3. 小山田(仙北)	2:04.0
100背 1. 内館(盛中)	1:27.0		3. 川村(城南)	50.0	200リレー 1. 仙北	2:50.8
2. 藤森(盛中)	1:38.2	100自	1. 千葉(岩谷堂)	1:29.0	2. 城南	2:51.7
3. 蛇澤(岩谷堂)	1:40.8		2. 越戸(仁王)	1:43.8	3. 岩谷堂	2:53.0
200平 1. 高野(盛中)	3:46.3		3. 佐藤(仙北)	1:43.9		
2. 石田(岩谷堂)	4:01.0	200自	1. 中田(仙北)	3:33.0		
3. 湯本(盛中)	4:08.2		2. 長岡(城南)	3:34.0		
200リレー 1. 盛岡中學	2:22.9		3. 淺田(仙北)	3:40.2		
2. 岩手中學	2:26.8	50背	1. 小林(城南)	53.1		
3. 岩谷堂小學	2:39.9		2. 松島(仙北)	54.8		
			3. 中島(仙北)	58.2		
小年二部 (13歳迄尋常科)		100平	1. 菅原(仙北)	1:52.3		

女子中等學校

50自	1. 小笠原(岩手)	50.8
	2. 山崎(岩手)	52.0
400自	1. 山崎(岩手)	9:45.0

◇第八回 東北 北海道 中等學校水上競技大會

昭和7年9月4日 下の橋プール (25)

100自	1. 富樫(鶴岡工)	1:05.4	2. 佐藤(角館中)	11:42.9	2. 秋田中學	4:04.8	
	2. 栗谷川(盛岡中)	1:09.0	3. 大和(角館中)	12:13.5	3. 盛岡中學	4:18.0	
	3. 遠原(東北學院)	1:11.6	100背	1. 石澤(青森商)	1:22.2	200リレー 1. 鶴岡工業	2:05.3
200自	1. 富樫(鶴岡工)	2:36.1	2. 内館(盛岡中)	1:25.3	2. 盛岡中學	2:08.0	
	2. 栗谷川(盛岡中)	2:39.6	3. 加賀谷(秋田中)	1:26.3	3. 秋田中學		
	3. 渡邊(角館中)	2:41.7	200平	1. 御法川(秋田中)	3:10.4		
400自	1. 塙(鶴岡工)	5:39.7	2. 吉田(八戸中)	3:11.0	得點 鶴工 48	秋中 26	
	2. 佐藤(角館中)	5:41.8	3. 熊谷(八戸中)	3:17.0	盛中 25	角中 21	
	3. 大和(角館中)	5:51.6	300メドレー		八戸 14	青商 6	
800自	1. 塙(鶴岡工)	11:42.3	1. 鶴岡工業	4:01.4	東北學院 4	梅檀中 3	

◇日本選手権地方豫選兼岩手水上選手権大會

昭和7年9月11日 下の橋プール (25)

男子			2. 熊谷(盛中)	6:21.8	3. 佐々木(江南)	3:31.8		
100自	1. 栗谷川(盛中)	1:11.3	100自	1. 名久井(江南)	24:48.7	200リレー 1. 盛岡青年團	2:08.4	
	2. 引地(警専)	1:13.6		2. 熊谷(盛中)	26:00.8	2. 岩手師範	2:09.0	
	3. 久慈林(江南)	1:15.4		3. 荒川(協會)	26:52.0	3. 盛岡中學	2:09.8	
200自	1. 栗谷川(盛中)	2:50.4	100背	1. 内館(盛中)	1:30.8	女子		
	2. 名久井(盛中)	2:50.4		2. 藤原(盛中)	1:37.4	50自	1. 高橋(岩高女)	45.0
	3. 熊谷(盛中)	3:00.2		3. 野村(一關中)	1:47.8		2. 小笠原(岩高女)	48.7
400自	1. 栗谷川(盛中)	6:00.0	200平	1. 佐藤(協會)	3:28.6	5背	1. 鈴木(岩高女)	1:03.5
	2. 名久井(江南)	6:01.4		2. 菅原(盛中)	3:31.6		2. 千葉(岩谷堂)	1:04.0

日本選手権大會地方豫選

主催 石川縣體育協會 場所 松任プール(50)

期日 昭和7年8月23、24日

男子			2. 木下善一(大阪ナタシヨソ)	1. 内野俊文(早大)	2:30.0
100自			3. 小西小一(大阪ナタシヨソ)	2. 木下善一(大阪ナタシヨソ)	
1. 内野敏文(早大)	1:04.3	200自		3. 林陸雄彦(根商)	

400自

- 1. 河合 辰雄(北陸水泳) 5:46.3
- 2. 竹中 和夫(松任農)
- 3. 清水 利信(松任農)

1500自

- 1. 河合 辰雄(北陸水泳) 23:20.4
- 2. 東海 政隆(七尾商)
- 3. 清水 利信(北陸水泳)

100背

- 1. 林 陸雄(彦根商) 1:19.2
- 2. 小西 小一(大阪ナタシヨソ)
- 3. 木下 善一(大阪ナタシヨソ)

200背

- 1. 林 陸雄(彦根商) 2:57.7
- 2. 内野 敏文(早大)
- 3. 木下 善一(大阪ナタシヨソ)

100平

- 1. 外海 忠生(福井高工) 1:26.5
- 2. 牧野樹一郎(大阪ナタシヨソ)
- 3. 鈴木 正雄(天玉寺師)

200平

- 1. 牧野樹一郎(大阪ナタシヨソ) 2:15.7
- 2. 坂江 義男(北陸水泳)
- 3. 山下 憲三(北陸水泳)

800リレー

- 1. 大阪ナタシヨソ(小西小一、佐藤侃、木下善一、鹽澤龍雄) 10:31.8
- 2. 北陸水泳團(白崎、酒井、池田、水野)
- 3. 天王寺師範(藤本、西谷、中川、兒玉)

飛板飛込

- 1. 柴原 恒雄(金澤三中) 118.16
- 2. 中田 周三(金澤水泳) 116.60
- 3. 北村 久雄(松仕農) 72.56

高飛込

- 1. 中田 周三(金澤水泳) 57.08

女子

100自

- 1. 永井 アイ(京都二女) 1:23.4
- 2. 宮城 清子(京都二女)
- 3. 水野スヰエ(椋山女)

200自

- 1. 鈴木 サト(京都二女) 3:07.9
- 2. 石田 豊子(椋山女)
- 3. 椎橋美代子(京都二女)

400自

- 1. 石田 豊子(椋山女) 7:08.3
- 2. 吉本 一子(松任女)
- 3. 宮崎 正子(椋山女)

100背

- 1. 松井 菊(京都二女) 1:39.9
- 2. 福住 テル(京都二女)
- 3. 水野スヰエ(椋山女)

200背

- 1. 松井 菊(京都二女) 3:44.6
- 2. 鶴崎 芳子(小松女)
- 3. 加納 千廣(小松女)

100平

- 1. 中村 芳江(京都二女) 1:33.9
- 2. 森崎 博子(椋山女)
- 3. 服部 花子(椋山女)

200平

- 1. 中村 芳子(京都二女) 3:25.1
- 2. 森崎 博子(椋山女)
- 3. 服部 花子(椋山女)

400リレー

- 1. 京都二高女(鈴木サト、宮崎清子、永井アイ、椎橋美代子) 5:40.9
- 2. 椋山高女(社本田、水野、石田、佐藤)
- 3. 小松高女(加納、鶴崎、關戸淑子、關戸百合子)

飛板飛込

- 1. 西村 春海(松任體協) 23.14

三重高農プール竣工記念競泳大會

主催 高農校友會 場所 三重高農プール(25)

期日 昭和7年10月9日 氣26° 水21°

高農學生

對級 200リレー

- 1. 林學二年(加藤、佐藤、米川、池田) 2:14.6
- 2. 土木二年(山下、田中、東、海老名) 2:18.0

中學校

- 100自 1. 松村 作夫(鳥商) 1:10.8

- 2. 向井 庸郎(山中) 1:13.0
- 3. 中井 吉一(富中) 1:13.7
- 400自 1. 松井 豊男(四商) 5:49.0
- 2. 伊藤 信一(四商) 5:49.4
- 3. 三井菊三郎(津中) 6:16.2
- 100背 1. 尾崎 暢生(志水) 1:25.3
- 2. 安部 貞己(四商) 1:25.5
- 3. 加藤 美好(津中) 1:35.0
- 200平 1. 鈴木 信造(四商) 3:13.8
- 2. 武岡 吉平(津中) 3:27.6

200リレー

- 3. 稻森 亮一(桑中)
- 1. 四商(伊藤、別府、中井、藤田) 2:09.2
- 2. 津中(北住、杉谷、小澤、白井) 2:10.6

800リレー

- 1. 四商(伊藤、別府、藤田、松井) 11:26.9
- 2. 津中(宮崎、杉谷、小澤、白井) 11:41.9

第三回 關西府縣青年團聯合水上競技大會

昭和7年10月9日 氣22° 水20°

名古屋體育協會主催 清洲プール

100自

- 1. 野村 弘(兵庫) 1:15.8

- 2. 木下 善一(大阪)
- 3. 田中 繁一(和歌山)

400自

- 1. 前川 重樹(和歌山) 5:36.6

2. 筒井 保(香 川)	200平	2. 兵 庫		
3. 篠田 衛(山 口)	1. 加藤 清(和歌山) 3:07.6	得點 和歌山 10	大 阪 9	
100背	2. 岡田 芳雄(愛 知)	兵 庫 7	愛 知 3	
1. 土浦 善弘(和歌山) 1:18.8	3. 小原 正美(高 知)	香 川 2		
2. 小西 小一(大 阪)	200リレー			
3. 小濱伊三次(兵 庫)	1. 大 阪 1:54.6			

朝 鮮 神 宮 競 技 大 會 水 上 競 技

昭 和 7 年 9 月 10、11 日 鐵 道 局 プ ー ル (25)

男 子				飛 込
50自	2. 清 島(京中)			1. 生 駒(京商) 107.72
1. 高 嶺(京師) 30.2	3. 武 藤(京中)			2. 大 高(善隣) 93.66
2. 横 山(京師)	200平			女 子
3. 月 森(遞信)	1. 三 鴨(龍中) 3:05.0 大會新			50自
100自	2. 都 築(全龍中)			1. 山 本(釜山) 44.8
5. 高 嶺(京師) 1:09.0	3. 小 野(京師)			2. 藤 田(馬山)
2. 横 山(京師)	400平			3. 長 島(仁川)
3. 太田代(龍中)	1. 三 鴨(龍中) 4:38.0			100自
200自	2. 都 築(善隣)			1. 川 崎(仁川) 1:52.8
1. 高 島(大邸) 2:34.8 大會新	3. 伊 藤(京中)			2. 長 島(仁川)
2. 太田代(龍中)	200リレー			3. 鴨 谷(馬山)
3. 夏 井(高工)	1. 同好會 2:02.4			50背
400自	2. 全龍中			1. 中 桐(釜山) 51.0 大會新
1. 高 島(大邸) 5:32.4 大會新	3. 京 師			2. 長 野(仁川) 51.2 大會新
2. 堤 (京城)	300メドレー			3. 吉 富(釜山)
3. 川 田(龍中)	1. 龍中 A組 3:59.4 大會新			100平
800自	2. 同好會 4:05.5 大會新			1. 井 口(釜山) 1:3 .6 大會新
1. 堤 (京城) 11:37.2 大會新	3. 龍中 B組			2. 長 野(仁川)
2. 吉 田(善隣) 12:32.8 大會新	800リレー			3. 青 島(仁川)
3. 篠 崎(京中) 12:35.0 大會新	1. 龍中チーム 10:45.6 大會新			200平
100背	2. 同好會チーム			1. 井 口(釜山) 3:48.0
1. 長谷川(鐵道) 1:20.2 大會新	3. 善隣商業チーム			

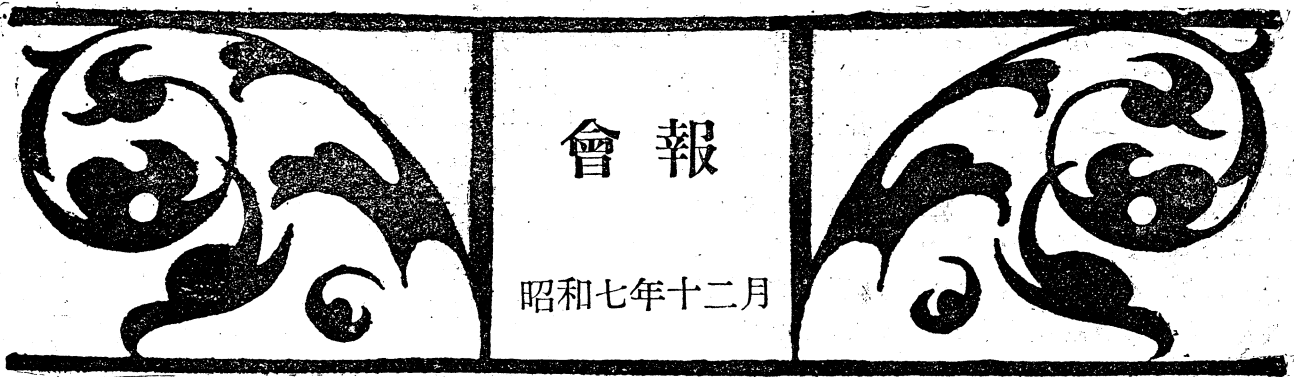
第 三 回 全 奉 天 對 全 京 城 對 抗 水 上 競 技 大 會

昭 和 7 年 8 月 14 日 京 城 鐵 道 局 プ ー ル

100自	1. 高 嶺(京) 1:09.8	2. 邊 見(京)	300メ ドレー	1. 京 城 チ ー ム
	2. 水 田(奉)	3. 水 田(奉)		2. 奉 天 チ ー ム
	3. 岩 下(京)	100背	1. 長 谷 川(京) 1:20.2	1. 京 城 チ ー ム
200自	1. 堤 (京) 2:34.0		2. 清 島(京)	2. 奉 天 チ ー ム
	4. 水 田(奉)		3. 水 川(奉)	
	3. 石 原 田(奉)	200平	1. 三 鴨(京) 3:03.2	得點 京 城 51 奉 天 21
400自	1. 堤 (京) 5:35.0		1. 長 澤(京)	
	3. 片 見(京)		3 石 原 田(奉)	
	3. 水 田(奉)	200 リレー	1. 京 城 チ ー ム 2:01.0	
800自	1. 清 島(京) 12:14.0		2. 奉 天 チ ー ム	



鎌倉悦子嬢の後逆飛(三米飛板)



N S R

日本水上競技聯盟會報

公 示 事 項

一、昭和八年度代議員氏名住所通知の件

本聯盟に對する代議員三名を昭和八年一月中旬に御決定の上その住所氏名を本聯盟會長宛御通知下さいその内一名は必ず東京及其の近郊の在住の方にお願ひ致します。そして在京代議員はいつでも會合に御出席願へて我々の仕事に御協力下さる方を御選定相成る様お願ひいたします。

二、本聯盟事務所移轉の件

聯盟本部の仕事能率を向上せしめる爲に事務所を左記に移轉しましたから様左御承知下さい東京驛の前でございますから御上京の節は御立寄下さい。尙夏期は神宮プールに於ても在來の通り執務する豫定でございます。

東京市麴町區丸ノ内二丁目二番地
丸ノ内ビルディング八階八〇七
電話 丸ノ内(33)三六〇八番
振替 東京三九九一九番(舊の通)

三、昭和七年度定例代議員會議事録

昭和七年九月三十日午後六時四十五分
東京市神田區美土代町東京 YMCA に於て夕食後開會。

出席者 三十六名、加盟團體二〇(含委任狀)
NSR會長、末弘嚴太郎

代議員、小樽體育協會(松浦武雄)、關東水泳協會(松澤一鶴、西本龍三)、靜浦游泳協會(齋藤享、安部輝太郎、川口又男)、名古屋體育協會(服部崎市、林年松、鬼頭正雄)、石川縣體育協會(本島喜太郎)大

阪體育協會(杉本傳、齋藤巍洋)京都體育協會(大澤保三郎)濱名灣游泳協會(田畑政治、鈴木忠藏、中村豐)三重水泳聯盟(土井一生)和歌山水泳協會(根來幸成)高知體育協會(鶴岡英吉)臼杵體育協會(元村敏夫)全國學生水上競技聯盟(野村憲夫、松浦武雄、有吉正太郎、大井忠紀、林正之)

加盟團體よりの全權委任狀、宮城水泳協會、野尻湖游泳協會、岡山縣體育協會、廣島縣教育會、愛媛水泳協會、福岡水泳協會、滿洲體育協會。

NSR會計 西本龍三、

專問委員 競泳競技委員(本井功、奥野良、野田一雄、渡邊寛二郎、武村清)飛込競技委員(伊澤光四郎、島崎保正)女子部委員(片山榮子)記録委員(飯田光太郎)外國關係委員(安部輝太郎)編輯委員(鶴岡英吉)

傍聽 朝鮮體育協會(土田正雄)大阪體育協會(中尾保、井關親之輔)

出席を通知され欠席せる團體、岩手水泳協會、新潟水上競技聯盟、松江體育協會、臺灣體育協會、

1. 會議の順序を協議 會議に入るに先ち末弘會長より會議の順序に就き協議し、大略下の順序に従ふ事となる。

1、會長挨拶(末弘)

2、會務報告(松澤)

3、會計報告(西本)

4、役員改選

5、本聯盟今後の事業

6、各地加盟團體よりの議題討議

2、末弘會長の挨拶。水泳が我國に於ける最大の

スポーツの一つとなつたのは、勿論現役選手の努力にも依るが、本聯盟各加盟團體の協力に依るものであると感謝し同慶の至りに堪えぬ、各種スポーツ團體中、水上聯盟程全國的一致を見て居る團體は世界中に無く、此の組織で選手を選んだ結果がオリンピックに於てかゝる成績を生んだ所以であると信ずる。今後もよりよく團結して、よりよき組織となし、男子競泳のみならず他の部門に於てもよりよき成績を擧ぐる様にし、世界をリードして行きたい。これからは次のオリンピックを目指し、或る目標を定め、此に向つて計畫的に活動して行きたい。今夜の會は其の基礎を定め計畫を建てる所の會であるから、此の目的が達せられる様、代議員諸君の協力を希望し又諸君の希望をも聞いて、今後の新しき道に進んで行きたいと思ふ。

3、**改正規約の確認。** 事業報告の最初に改正規約を確認する爲に昭和七年度版規約を提示し、既に在京代議員會にて報告済なれども改めて田畑専務理事より改正條項の大要に就き説明があつた、此の内改正を要すべき點、下の如く決議さる。

常務理事の任期一年、五名とあるを、任期二年若干名と改正する事。會計の任期も同じく二年とする事。理由は事務能率を擧げる爲。

4、**事業報告。** 松澤より事業報告をなす。時間無き故に詳細は雑誌「水泳」に報告してある所を確認して貰ひ、主としてオリンピックに關する合宿、遠征等に就き報告す。夏期中の事業としては水泳講習會を石本巳四雄主任となつて行ひたる旨報告した。

5、**會計報告。** 西本より收支計算表を提示し説明があり、満場一致可決さる。後に田畑よりオリンピックの會計の概要を念の爲報告したが此は後日精算を待つて發表する豫定。最後に末弘會長より會計に關する意見を述べた。「前回のオリンピックと思ひ合せて、今回のオリンピックの成功の一面は水泳チームが可成りに餘分の金を持つて行く事が出来たからと云ふ事が出来る。次回に對しても此の事はよく考へて置かねばならぬ。依つて今後はしつかりした會計規則を作つて行きたいと思ふ。」會計規則草案の作製は常務理事に一任さる。

収入之部

昭和六年度繰越金	1023.25
昭和六年度費用分擔金	
關東水泳協會	50.00
白杵體協	20.00
松江體協	20.00
廣島縣教育會	20.00

臺灣體育協會	20.00
岡山縣體育協會	20.00
昭和七年度分擔金	
白杵體協	20.00
臺灣體協	20.00
愛媛水泳協會	20.00
指定席賣上	7696.00
文部省補助金	1200.00
早慶戦より寄附	100.00
末弘會長よりプール建設金の内	13410.00
末弘會長より	200.00
日米對抗	
豫選會入場料	8909.10
本競技入場料	43359.01
プログラム賣上	1532.10
廣告料	320.00
トロフィー代	900.00
茶菓御下賜金	45.00
オリンピック豫選會	
第二次豫選會入場料	812.50
最終豫選會入場料	13791.49
プログラム賣上	4 9.55
廣告料	600.00
申込料	128.00
宮様御下賜金	30.00
合 計	94,759.00

支出之部

競技會費用	
日米對抗	44045.26
豫選會費用	31 0.17
冬期合宿費	2184.25
春期合宿費	2725.16
神宮建設費繰入	26000.00
聯盟費用	
前年度九月より本年五月迄	4013.23
合 計	82418.07
差 引	12340.93

6、**新加盟團體。** 朝鮮體育協會の加盟を承認、尙加盟の意嚮ある熊本、及山形の團體に就ては常務理事會に一任さる。成るべく承認の豫定。尙和歌山水泳協會は和歌山縣體育協會と改名愛媛水泳協會は愛媛縣體育協會する件承認さる。

7、**役員改選。** 末弘會長留任の件、及松澤を名譽主事に選舉する件は満場一致直ちに承認。各専門委員理事決定は末弘會長及松澤名譽主事に一任。理事選舉に關しては靜浦より動議提出、その他各團體より意見續出し、決定を見ず。變則なれども先會長、名譽主事に於て常務理事より先に決定する事となり。

本會議の終りに廻す事となる。終りに末弘會長から田畑名譽主事に對し、代議員會を代表して今迄の勞苦を謝した。

8、**アマター資格停止**。オリンピック飛込選手石田英勝君のアマター資格に關し調査したる所、映畫入りの動機及契約文を見て、當然その資格を停止さるべきものなる事を末弘會長より報告。映畫「制覇の蔭に」に就ては文部省と前後策協議中なる眞報告

9、**トロフィー受諾の件**。今後トロフィーの寄贈を受ける場合は慎重なる態度を以て考慮の上受くる様にしたい。今年受諾した分は日本選手權大會に對し次の三箇である(末弘會長報告)

男子200米自由型	川崎肇氏
男子200米平泳	子爵相馬孟胤氏
女子400米リレー	侯爵西郷從徳氏

10、**諸事業と新聞社との態度決定**。從來水上競技の發達に新聞社が貢獻して呉れた事は明かな事であるが、今日これだけに發達した上は、新聞社は何等か他の方法で貢獻して貰ひたいと思ふ。かゝる意味でオリンピック選手歡迎會、報告會等は何れも聯盟自身がやつたのである。依つて末弘會長より提出された此の二原則が可決された。

1、今後の聯盟の事業は原則として聯盟自身の手にて行ふ事。

2、地方に於て選手權大會を催す場合等、財政的に又地方の事情等に依りその土地の新聞社の世話になる場合はいくつかの新聞社が競争して居らない様な所ならば差支へないが、競争の激しい土地ではなるべくさげたい。

11、**日本女子水上競技聯盟に對する本聯盟の態度に就て**、該聯盟の態度は本聯盟の方針に反する處あり、種々論議の結果該聯盟を否定する事に決定。

12、**今後の事業方針** 末弘會長演説す。過去四年間は男子競泳を目標にオリンピック第一主義を唱へて實行した結果成功したが、今後は水泳、水上競技の全種目に對して夫々目的を定め、次回のオリンピックを成功せしむる様に努力して行きたい。此に就ては水泳、水上競技の全國的普及運動を起し、古來の傳統的泳法を守つて居る様な水泳場からも、又地方で芽生えた選手達をも一層よく導く様に方針を定めてやつて行きたい。方法としては聯盟から地方へトロフィー等を出して奨励方法を講ずるのも一策であらうし、又聯盟から地方によき指導者を派遣する事、指導フィルムを作製する事等も一つの方法であらう。順次實現を期したい。詳細なる今後の方針及實施方法は常務理事附托。

大阪體育協會は「次回オリンピックに對する準備を如何なる方針によつて實施せらるゝや」との質問を提出し、又濱名灣游泳協會より「地方水泳普及事業としての具體案に關する件」が提案してあつたが此の演説に對し満足なる旨賛意を表された。

13、**昭和八年度選手權大會開催地決定**。名古屋體育協會より名古屋市に於て、又大阪體育協會より大阪市に於て夫々開催したき旨提案があり、此に對し議論百出。大いに緊張したが最後に會長案として、選手權大會の開催を地方とする事は非常に結構な事であるが、一方水上競技聯盟の財政的方面も考慮すべきであるとし、昭和八年度は東京に於て行ふ案に對し一致賛成。

松澤より明年度は明治神宮大會が行はれる年なる事を注意した結果、日本選手權大會は獨立して夏に行ひ度く、且オリンピックの年は今年の例に鑑み選手權大會と豫選を重複せしざる方可なる事に意見の一致を見た。神宮大會は絶対に聯盟にて行ふ事。

又名古屋服部氏より事情よく了解したから、明年度東京に開催する案に賛成するが、一オリンピックの四箇の選手權大會中少くも二つは地方にて行ひ度し、且名古屋は今回新にプールを新設する氣運にあり、清川の如き名選手も輩出するに至つたのであるから是非一回選手權大會を開催して貰ひ度しとの意見を述べ、末弘會長も此に對し時機を見て代議員會の賛成を得られるであらうと答へた。

又大阪より甲子園室内プール完成に就き冬季室内選手權大會舉行したき案があつたが、冬季の重き競技會を不賛成なりとした。

14、**専門委員中に醫事部委員設置の件**。田畑氏より提案、オリンピックに於ける選手の病氣等の事に鑑み、此の部を設くる事に満場一致賛成。

15、**全國學生聯盟より常務理事を出すの件**、野村氏より提案。

野村憲夫氏は明春の改選期に於ける辭意を有する旨發表し、此の改選期を待ちて、NSRへ對し常務理事若干名を加へたく、現在に於ける決定を保留したき希望を述べたるに對し、明春に於て全國學生水上競技聯盟實行委員より若干名の常務理事を選ぶ件及それまで連絡の爲現主事を常務理事に加へる件は可決された。

16、**全國少年少女選手權大會を開催するの件** 濱名よりの提案は競技委員會附托。

17、**標準泳法普及の件** 石本氏より説明する所あり。標準泳法は既出版物となつて居り、此の夏に於ける講習會でも多大の効果を收め、選手權大會に

於ける少年少女のエキジビションは更にその効果を裏書するであらう、濱名よりの提案の少年少女の大会の如きもその普及を待つて始めて有効と思ふ、さしあたり來年度は東京に於て標準泳法を中心とした大会をやり度いと考へる。實施方法は専門委員附托

18、**地方豫選の義務** 靜浦游泳協會提案「本聯盟加盟團體は特別の事故無き限り、毎年日本水上競技選手大會地方豫選會を開催す可き義務を有す」提案者より説明一致賛意を表し聯盟規約中に成文として入る文案作製は常務理事會に一任、郵便に依りて加盟團體の賛成を求むる事と決定。

右につき末弘會長より、選手權大會には各地加盟團體から多數選手を參加させる様にしたい意見を述べ、松澤より選手權大會地方申込者の棄權者多きは遺憾であるが、此は各地方團體に於て責任を以て申込みたる人の出場方を勵行されたき旨希望を述べた

19、**長水路記録設置の件** 靜浦游泳協會提出「日本長水路最高記録設定の件」滿場一致賛成、同時に短水路記録と云ふものを認める件をも承認され、専門委員及常務理事會に於て早速原案を作製する事となつた。

20、**競泳地公認規定條件明記に関する件** 三重水泳聯盟提出議案「1. 競技規定附則、競泳池公認規定第三條、認容差異を示す箇條中にプールの正長を示すべき温度を明示する様にし度、即同條括弧内を修正し、(温度攝氏〇〇度に換算したる建造物の實測距離と公稱距離との差)とし、更に適當の條を設けてプール自體の温度は何度(氣温、水温等)を以て其れと見做すや、並にプール自體の膨張係數(コンクリート造、石疊等の場合に就て)を明示する様にせられたし。

2. 公認規定五條及九條の實施方に關し、地方所在プールの便宜を考へ、適當の措置をとられ度、(イ)NSR指定測量者を地方にも所在せしめられる事(ロ)由種公認後五年目毎にうくる再審査測量の適當なる施行方」

記録委員附托となる。

21、**聯盟規約第廿六條補正の件** 松澤より提案、第廿六條の末項選手權大會に出場せしめ得る人員の査定方に關して、常務理事、及競技委員會に附托する事となる。

22、**役選改選の件會長** 名譽主事は既に決定、理事に關しては各加盟團體より希望者を一名宛明日選手權大會場にて受付ける事とし常務理事次の如く決定、

奥野良、鶴岡英吉、西本龍三、中村豊、齋藤巍洋野田一雄、學生聯盟より暫定的に野村憲夫。

名譽會計 林 忠 雄

専門部理事

競泳競技委員 奥 野 良
飛込競技委員 島 崎 保 正
水球競技委員 吉 本 祐 一
標準泳法委員 小 松 崎 三 次
女子部委員 片 山 榮 子
記録委員 渡 邊 寛 二 郎
外國關係委員 安 部 輝 太 郎
編輯委員 鶴 岡 英 吉
醫事部委員 太 田 正 隆

23、**本聯盟功勞者表彰の件** 田畑前名譽主事より提案、高石、鶴田表彰の件、並に末弘會長より日本水上競技界先覺者として杉本傳氏表彰の件、滿場一致可決さる。表彰方法具體案は常務理事會一任。

24、**顧問推薦の件** 右記四氏推薦さる。

田畑政治氏、飯田光太郎氏、石本已四雄氏、杉本傳氏。

25、**在京代議員に就て** 松澤主事より、「其の機能の重大至便なるを考へ、人選を考慮し、又是非任命して貰ひ度旨希望を述べた。

26、**雑誌「水泳」に就て** 編輯委員主任鶴岡氏より、現況報告あり、もう少しの購讀者を得れば收支相償ふに至る故に其の使命の重大性を考へて、各加盟團體に於ても宣傳方努力せられ度希望を述べた

かくて成功裡に本年度定例代議員會を終了し、午後十時散會した。

F I N A

F I N A 代 議 員 會 議 事 錄

1932年8月5日 於ロサンゼルス、ビルチイモア、ホテル

18ヶ國24名の代議員出席し、會長イー、ジー、ドニー氏議長席につき議事に入る。尙日本よりは田

畑政治、安部輝太郎兩氏出席。

◇レオナード、スペイン及びウオレス、スペインのオリンピック出場否認

兩選手の代表するブリチイツシュ、ギアナはIO. G

より参加を認められず従つて兩選手の出場も自然失効。

◇シマイカ選手申込失効

エジプトを代表するシマイカ選手は申込書に同國水泳代表の署名なく、本國に問合せたる所同國選手として認め難しとの返答あり。この申込失効。

◇支那、印度、ラトヴィア、メキシコ、パレスティンの加盟可決

◇ポルトガルのFINA加盟停止解除

同國は滞納會費を完納したるにつき、FINA 理事會はその加盟停止を取消した。

◇世界記録公認

下記世界記録は FINA の規則に適合するものとして確認さる。

男子競泳

種目	氏名	時間	水路	場所	日附
500自	タリス(佛)	6:01.2	25米	フランス	4.1 ³
1000自	タリス(佛)	12:57.3	50米	パリ	5.25
10平	カルトンネ(佛)	1:13.6	25米	パリ	5.20 ^(32年)
200平	L.スベンス(加)	2:44.6	25碼	シカゴ	4.2

女子競泳

100碼自	マヂソン(米)	60.0	2碼	ホストン	4.20
100米自	マヂソン(米)	1: 6.6	25碼	ホストン	4.20
220碼自	マヂソン(米)	2:34.3	25碼	シヤトル	5.15
400米自	マヂソン(米)	5:31.0	25碼	シヤトル	2.3
440碼自	マヂソン(米)	5:31.0	25碼	シヤトル	2.3
500米自	マヂソン(米)	7:12.0	25碼	デトロイト	4.25 ^(31年)
100碼自	マヂソン(米)	13: 3.6	55碼	ニューヨーク	7.17
1000米自	マヂソン(米)	14:44.8	55碼	ニューヨーク	7.19
1500米自	マヂソン(米)	23:17.2	55碼	ニューヨーク	7.15
100米平	ヤコブセン(丁)	1: 6.2			
		331/3米	コペンハーゲン		4.10 ^(32年)
10米平	ヤコブセン(丁)	1: 6.0	25碼	ストックホルム	5.11
200碼平	イスベルグ(瑞典)	2:51.0	25碼	ストックホルム	2.26
200碼平	ヤコブセン(丁)	2:50.4			
		331/3米	コペンハーゲン		4.29
20米平	デニス(蒙)	3:08.4	25米	シドニー	1.18
200米平	ロツケ(獨)	3:08.2	25米	ライプツヒ	4.21
200米平	ヤコブセン(丁)	3:03.4	25碼	ストックホルム	5.11
400米平	カスタイン(和)	6:38.4	25米	アムステルダム	4.2
100米背	ハーディング(英)	1:13.6	25碼	ブラシー	5.30

◇大陸對抗リレー

大會直後8月14日に行はる、ジョージ、ハーン、カッパ大陸對抗リレーに關し、名譽主事は理事會の命を受けロサンゼルス市當局と打合せの結果、會場の提供を受け、當日の純益の半額をFINAに寄贈せしめ若し欠損の場合はFINAは之を負擔せざる旨、並に當日の主催者はFINAたる可きことを報告可決。

◇チェコスロバキア提案

規則書第39條、水泳着の規定改正の特別委員會を設けることは、理事會を以て本條改正を討議することと決定(日本賛成)

◇フランス提案

A) オリンピック大會實行委員の件。

ドリニー氏が前年はスペイン代表とし、今年はチェコスロバキア代表として本會に臨めるに就き、同氏がフランスに關聯して上記實行委員の一人となりたることにつき抗議、主事より同氏は1930年佛國代表たりしとき會長に選ばれたるものにて、又FINA委員がその代表する國を變更することは差支なき説明あり、佛國は抗議撤回。

尙同一國人か二人FINAの理事たることの不合理を指摘したが、理事選出は國家單位でなく個人を選ぶのであるから差支なしとして解決。

B) "Eau spot-Soleil" 誌に對するFINA公認停止同誌の公認停止取消は、同誌が歐洲選手權大會後に於ける論旨が甚だしくFINA役員を侮辱するものなりとして主事及會長の力説あり、再び公認することを得ずと決す。但しこの公認停止は決して佛國水泳協會に對して爲されたるものた非ずと言明さる。

C) FINAへの代表はその國民たらざる可からずとの議は否決さる。

之に對してオーストラリアのテイラー氏の「地理的偏在國が代表權を失ふ恐れあり、且其國の會長主事の署名なくしては代表の委任を受け得ざるにより他國人を代表とするも、不適當なる代表者による不利を受くる恐れなし」との説により、又日本も「本來佛國説に賛成なるも偏在國の立場を考慮しテイラー氏の説を可とする」旨を述べ決定。

◇ドイツ提案

A) 水球新規則は可及的速かに實施すべしとの案は主事より本件はI.W.P.B.の權限にして、I.W.P.B.は1934年1月1日より實施する旨決議したる旨報告、提案撤回。

B) アマチュア問題

同國に於ける窮狀を訴へ、體育師範學校卒業者の水泳教師は同國內に於てのみアマチュアとして競技に出場するを得ると認められたしとの懇願的提案はアマチュア規則複雑化と誤解を恐れ17票對3票にて否定。

◇ハンガリー提案

世界記録種目に4x100m及4x200mリレーを男子種目に加ふる案は、米國よりの男子及女子の4x100碼、4x100米、4x200碼、4x200米リレー及び3x100碼、3x

100米メドレー、リレーを認めるとの案と同時に審議され、

男子4x200碼及び4x200米リレー

女子4x100碼及び4x100米リレー

を世界記録種目とし、男子のリレーは50碼及び50米のプールたる可きことを決定。尙日本は「將來世界記録を全部米制とする希望を有し、新種目中に碼制リレーを認め難し」と提案したが多数決のため否定される。

◇イタリー提案

A) 世界記録公認の水の密度制度

日本の修正案と合せ審議、申請の際淡水、鹽水の別を明記し、世界記録表にもその旨註記すべきことと決定。

B) 800米乃至1000米の世界記録公認の場合のプールを50米以上より33 1/3 米以上に引下げんとするの案は一致否決。

◇オーストラリア提案

アマター問題

海水浴場番人、Life-guard 等のアマチュア資格問題はアムステルダム の代議員會の時より疑義とされてゐたが、本會にても議論百出し結局之等はプロフェシヨナルと決定。

◇アメリカの提案

A) デッドスタート採用説は26對4票にて否決。

B) 平泳に於ける折返し の規則を嚴密明確にする ことの案は20對4票にて否決。

C) 背泳規則(第35條b項)に對す下記追加文案は一致可決。

「折返し或は決勝點に於て、手が端壁に觸れる以前に身體を下向にせる競技者は失格するものとす。」

D) オリンピック女子競泳種目に1500米自由形を加へ、4x100米リレーを4x200米リレーに変更し、同時に女子高飛込を10米より8米とする件は22對6票にて否決。

E) 國際大會に於ける採點法制度は一般にその必要なしとて否決。

FINA代議員會議事録

1932年8月14日 於ロサンゼルス ビルチイモアホテル

15ヶ國、19名の代議員出席、ドリニー議長(後に新會長ビンナー議長)として議事に入る。日本よりは田畑政治、安部輝太郎兩氏出席

◇會長選舉

フアン氏の推薦によりビンナー氏(獨)滿場一致

を以て會長に當選。

◇副會長選舉

フアン氏滿場一致再選

他の一人は秘密投票の結果30票中28票にてドリニー氏當選。

◇理事選舉

10名の候補者を指名し秘密投票の結果次の四名當選。

ヘンリー(米)	25票
ハーシュホーン(加)	22票
デ、ラーヴェ(白)	16票
ホヂソン(ニュージーランド)	16票

主事選舉

ドナート氏滿場一致再選。

◇I.O.Cに對するFINA代表

ビンナー、ドリニー、ドナートの三名滿場一致決定

◇近代五種競技委員會に對するFINA代表

ドリニー、ドナートの二名滿場一致決定。

◇FINAの新規則書發行

新水球規則を含むFINAのHand Book は1933年の後半に發行すべきこと一致決定。

◇次回のFINA代議員會

次の通例總會は1936年ベルリンに於て開催することとし、日取等は理事會に一任。

◇國際水球委員會の件

佛國よりの緊急動機により、I.W.P.Bに英國代表4名、FINAの代表4名とするの不合理をあげ、FINAより8名とすべしと主張あれども緊急動機不成立。

◇新會長ビンナー氏挨拶

AAUの準準委員會及び各代表に謝辭ありたり。

日本水上競技聯盟機關雜誌 水泳 第十五號

定價三十錢 一年六回隔月發行

豫約申込者に限り販布す (一年前金豫約は送料不要)

廣告料 十圓乃至三十五圓

御申込次第詳細回答

昭和七年十二月二十六日納本

昭和七年十二月二十七日發行

編輯兼發行人 鶴岡英吉
(日本水上競技聯盟代表)

印刷者 君島潔
印刷所 共同印刷株式會社
東京市小石川區久堅町一〇八

發行並所 東京市麴町區丸ビル807
日本水上競技聯盟編輯事務所
振替貯金東京三九九一九番